

# 茗溪



夏

2021

令和3年

no.1109

特集  
茗溪創基 150 年

## 目次

- グラビア …… 01～02
- 第10回定時総会（代議員一覧） …… 03
- 理事長挨拶 …… 04
- 学長ご挨拶 …… 05
- 第10回定時総会議事要旨 …… 06～07
- 令和2年度決算報告 …… 08
- 令和3年度事業計画・予算書 …… 09
- 茗溪創基 150年記念誌編纂のこと No.2 …… 10～13
- 茗溪創基 150年記念事業のこと …… 14～16
- Peer Garden …… 17
- 茗溪創基 150年記念寄付のこと …… 18
- 茗溪創基 150年寄付者ご芳名～ …… 19
- 知の提供II …… 20～21
- それぞれのオンライン …… 22
- 筑波大学はいま …… 23
- 茗溪学園だより …… 24
- 追悼録 …… 25    ■ 広報 …… 26
- 表紙のことば …… 26    ■ 編集後記 …… 26



茗溪会館5階ラウンジ 2021年6月（茗溪会事務局）



日本のバウムクーヘンの歴史は  
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。  
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは  
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

www.juchheim.co.jp/juchheim  
〒650-0046 神戸市中央区港島中町 7-7-4

ユーハイム®

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間：平日(月～金) 9:30～17:00(年末年始を除く)  
携帯電話・PHS からはご利用いただけません。

## 食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /  
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉強にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。  
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



### 学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。  
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、  
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。  
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。  
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの  
サポートも可能です。

### 寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者の年齢層に応じたメニューを  
提供。栄養バランスを考慮した食事を提供するだけでなく、  
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を  
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供するこ  
を目標としています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理  
業務も行っていきます。



ほぐむ、大切なことすべて  
**SHIDAX**

シダックスフードサービス株式会社

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町1-17-10 シダックス新宿セントラルロード  
TEL.03-6632-5052 (代表)



# 力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。

- 工学部
  - 機械工学科 機械工学コース
  - 機械工学科 航空宇宙学コース
  - 電気電子情報工学科
  - 応用化学科
- 創造工学部
  - 自動車システム開発工学科
  - ロボット・メカトロニクス学科
  - ホームエレクトロニクス開発学科
- 応用バイオ科学部
  - 応用バイオ科学科 応用バイオコース
  - 応用バイオ科学科 生命科学コース
- 情報学部
  - 情報工学科
  - 情報ネットワーク・コミュニケーション学科
  - 情報メディア学科
- 健康医療科学部
  - 看護学科(看護師・保健師養成課程)
  - 管理栄養学科(管理栄養士養成課程)
  - 臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

特命顧問 河野 隆二(S47 農)  
教職センター 大畑多津雄(S52 理)(神奈川茗溪会会長)  
I R 室 望月 正大(S51 理)(同 副会長)  
公務員対策室 林 忠(S58第1自)



**神奈川工科大学**

KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030  
TEL.046-291-3002 URL:https://www.kait.jp/

# 茗溪会館5階ラウンジの紹介

(P.26 参照)



⇨エレベータホール



# 第10回定時総会

令和3年5月31日(土)  
茗溪会館 2F(茗溪の間)

(P.6～7参照)



茗溪会館入口の立看



議長を務める江田理事長



総会全景



リモート参加の各代議員



一般社団法人

# 茗溪会 第10回 定時総会

令和3年5月29日(土) 茗溪会館にて

## 定時総会出席代議員一覧

(オンライン出席を含む)(敬称略)

筑波大 仏山輝美	千葉 山崎成夫	東京 竹村恭一	愛知 蟹江吉弘
筑波大 田島直樹	東京 中村穎司	東京 笹のぶえ	京都 三橋利彦
北海道 川口 淳	東京 渡邊 悟	東京 松村直樹	大阪 戸井田 克己 (代理)
宮城 土生善弘	東京 三橋浩志	神奈川 中道 徹	岡山 長尾隆史
秋田 木浪恒二	東京 高橋 誠	神奈川 大石 進	徳島 安永 潔
山形 津田 浩	東京 柳 久美子	神奈川 佐々木悦子	愛媛 星川志朗
福島 大沼博文	東京 飯島睦子	長野 卷山圭一	高知 野田智洋
茨城 中島博司	東京 浅井一郎	石川 田井友章	福岡 稲富 勉
埼玉 細田幸一	東京 海老沢 敬子	愛知 柴田悦己 (代理)	熊本 赤星隆弘
千葉 植草 完	東京 徳田安伸	愛知 竹下裕隆	鹿児島 黒木哲二

# 挨拶 (要旨)

一般社団法人 茗溪会

理事長 江田昌佑



本日、ここに第10回の定時総会を開催できますことは関係各位とりわけ代議員の皆様のご理解とご協力の賜と心から感謝しています。また、茗溪会全国の役員・会員の皆様には、日頃より、茗溪会活動にご理解とご敬意と感謝を申し上げます。

昨年来、猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症によって、不幸にもお亡くなりになられた方々に謹んでお悔み申し上げます。また、罹患された方々や影響を受けられた方々に心からお見舞いを申し上げます。

振り返りますと、昨年の総会は未知のコロナ禍で緊急事態宣言が発出された非常態勢下でありました。今回は全国主要都市圏等に対して、第3回目の非常事態宣言の延長・追加の期間の中にあります。昨年から今回までの間、幾度かの波があり、現在は第4波の感染爆発の抑え込みに全力を注入すべく努力・奮闘しているわが国の現状です。ある面では予想されたこともありましたが、2年目近くなった頃からの変異型ウイルスの発生とそれが有する強い感染力の猛威に対しての一層の対策が必要となってきました。

われわれは専心コロナ禍に立ち向って闘い、収束まではそれぞれの状況に応じたペースで日常の課題に取り組みながら歩み続けることこそ次の転機をもたらすことになり

ましよう。

茗溪会が新法人としてスタートして10年を経ました。ほぼ5年の歳月は、本会の構造面及び機能面の変革すべきところの刷新に鋭意努めた道程でありました。そして「新法人の発足3年を経過して」レビューと中期将来計画を策定し、本会運営の大綱として位置づけ、平成の中興を目指して前進を期したものでした。

当面の重要課題として提起されたのが、組織面の充実・強化、財政面の充実・強化、価値ある事業等の推進などでありました。その後今日までの本会の事業等の施策等（茗溪拡充キャンペーン、茗溪会館リニューアル計画等々）は大綱のもとで一貫して推進して参りました。現在進行中の茗溪・筑波産業人倶楽部の推進（同窓の新しいネットワーク作り）や、茗溪創基150年記念事業（グラウンドテーマ・伝承と創造）なども、本会が現在をふくめ将来に亘っての推進・発展の道程としての一貫した課題であり、歴史上の責務であると重く思量してのことです。

茗溪会にとって、歴史的にも重要な時期の本年度の総会をコロナ禍のために見送るわけには参りません。総会を開催し、皆様のご理解とご賛同を得て諸課題を遂行すること、特に、今年度来年度に予定している茗溪・筑波産業人倶楽部の全国展開の会や150年記念事業などの遂行と成果をはかりたいと念願しているところであります。コロナ禍の中の開催は最難事でありました。対面・オンライン併用で会を実施するとは申せ、不測の事態にも備えなければなりません。代議員の皆様にはご不便やご心労を煩わせたことを申し訳なく存じています。この間の事情をご高察下さってご了解たまわりたく存じます。

前年度はコロナ禍の影響で、われわれの活動は自粛や制約の中ではありませんでしたが、まがりなりにも日常の運営を経て参りました。

しかしながら、まことに残念なことは本会の諸集會や懇談の機会を著しく無くしたことでした。本部と地域組織等、各地域組織と会員の皆様との双方の交流や心情的の通った連携、すなわち絆の形成に有効であった地域組織等の総会や懇親の会が殆んど開催できなかつたことです。このことが、直接的間接的な結果として、皆様が拠出して下さる年度会費等の大きな減少に影響したと考えるています。

片や、評価できる面もありました。運営等の在り方として、可能な場合にオンラインを活用することに務めま

した。その結果として、本会組織委員会及び茗溪・筑波産業人倶楽部が主導して開催した「オンラインによるOB・OGキャリアカフェ（年2回、於・茗溪会館）」は、充分な準備を経た企画ではありましたが、予想以上の成果と貢献があったと高く評価されました。母校の学生・大学院生や若手のOB・OGをふくめた共同作業的な方法で満足度が高く、新機軸の活動の核として数えることができました。

茗溪創基150年記念事業については、令和元年よりスタートし、いよいよ後半の2年目に入りました。季刊誌「茗溪」等でお知らせしていますが、記念事業の諸企画には、多くの会員の皆様が何らかの形で関わり、参加・参画できるように推し進めることを念頭に置いています。

今年10月3日（日）、茗溪会館に於いて「茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会」を開催いたします。この行事は150年記念事業の中でも歴史的意義の有る重要な催事と考えています。3年前茗溪・筑波産業人倶楽部が発足以来全国のブロックで産業界（含官界）の組織作りの気運が高まり、幾つかのブロック等で発足を見ることができました。今回は関係者が一堂に会し、全国的規模での連携と躍進を企図して懇談し、将来への発展の礎となるよう成果を期待されています。

この会の始めに講話の機会を設けました。講師は敬愛する長瀬要石さん（教大・農経卒、元茗溪会理事）です。題は「コロナを越えて明日を拓く」時機を得たテーマです。茗溪人の皆様には是非聞いてほしい講話です。

記念事業の集大成としての式典（令和4年4月29日（金・祝）於・茗溪会館）及び記念誌等の準備の作業等は委員会が中心となって進められています。記念品の選定に当っては、多くの会員の方々のお知恵やご協力を得ながら決定を見たいと考えています。

加えてお願いしておきたいことがあります。茗溪会の行事や催事等などの関わりや交流等の中で、本年度の事業計画の中に挙げられている「地域組織の充実・強化」や「新規会員の獲得・増加と会費納入率アップ」等に十分なご高配とご協力をお願いしておきます。

代議員の皆様、全国各地域組織等の皆様には、茗溪会発展のために特段のご理解と更なるご協力をお願い申し上げます。

なお、コロナ禍に屈することなく、収束に向って日々の労力も怠りなく、ご健勝で、ご活躍下さることをお祈り申し上げてご挨拶といたします。

令和3年度 茗溪会定時総会

## ご挨拶

国立大学法人 筑波大学長

永田 恭介



日頃より、貴会からの本学へのご支援に感謝を申し上げます。貴会の令和3年度の定時総会に際して、ご挨拶を申し上げます。

世界中で、新型コロナウイルスが猛威を振るっています。コロナ禍は、地球に暮らす全ての人が改めてこの世界のあり方について思いを巡らせる契機となりました。我々を取り巻く社会について、誰もが真剣に考えを深め、そして見えてきたこと、感じられたことも多いはずですが、「格差」と「分断」ということが、多様な観点ではつきりと見えてきました。それらは、たとえば、地域間の格差、教育における格差、職業選択や労働環境の格差、ジェンダー不平等による格差などであり、宗教対立による分断、人種による分断、価値観・世界観における分断などです。こうした格差と分断は、他の事柄へと伝播し、様々な地球規模の課題、たとえばエネルギー・環境問題、新たな疾患などについて議論する際に決定的な

意見の違いを生み出すようなことにもつながっています。そういった問題は、個人の幸福に直接関わるとともに、国際紛争などをも生み出しています。New Normalと呼ばれる新たな日常が始まり、社会の在り方はこのコロナ禍以前の状態に戻れることはありません。このような状況の中で、我々は、大学の役割について、また本学の使命について考えていかなければなりません。

本学は昨年10月に文部科学大臣から、第4期中期目標期間における指定国立大学の指定を受けました。申請に際して心に留めたのは、研究や教育を通じた本学の社会的な役割とは何かということでした。それに対する現時点での答えとして描いた本学の目指す大学像が「地球規模課題を解決する真の総合大学」というものです。一般的には、様々な学問分野を有する大学を総合大学と呼びますが、単に様々な分野が集まっているだけでは、本来の「総合大学」とは言えないと考えています。学問分野間が協働して研究や教育を遂行することが総合大学の必要条件と言えるでしょう。多くの総合大学では学部・研究科間の敷居が高く、一大学の中に複数の学問分野が並存しているに過ぎませんが、本学は教・教分離により学問分野間および教育組織間の壁が低い体制をすでに実現しており、分野横断的な研究と教育を強みとしています。「真の総合大学」と銘打つためにはこの条件に加えて十分条件に相当するものが重要です。以前から述べているように、学際性の究極的な意味は、新たな学問分野の創成です。この考え方を基盤として、本学は、「真の総合大学」の十分条件を予測不可能な時代の未知の危機に取組み、既存の学問分野だけでは解決できない課題に挑む新たな学問分野を創成することと定めました。本学が指定国立大学として第4期中期目標期間において目指すのは、各々の学問分野を強化した上で、学問分野間の壁を超えて分野横断的な協働を推進し、新たな学問分野を創成するとともに、その精神に基づいた研究と教育を進め、その成果を我が国のみならず世界に還元するという社会的な役割です。その第一歩は社会の中で「信頼」という概念を共有するための努力です。そして本学の役割を果た

していくためには、社会との良好なエンゲージメントが重要だと考えています。

来年度からは、指定国立大学としての第4期中期目標期間が始まります。そのために、教育研究と社会貢献における具体的な目標と計画を立案しているところで、教育の観点からは、学生の動機づけが最も重要であることは言うまでもありません。動機は学生自身の才能を顕在化し、秘められた能力を高い水準で発揮させます。この観点から、学士課程では、課題（命題）ベースの学習を通じたチュートリアル教育を導入しようと考えています。ここでいうチュートリアルとは、知を相互作用により伝える教育手法で、オックスブリッジ方式が有名です。本学が構想するチュートリアル教育では、教員は学生の学問的な問題意識を1年次から育むために、議論を重ねることにより、自発的で学際的な学びの環境を提供しようというものです。大学院課程では、すでに全学的に学位プログラム制へ移行し、分野を越えた学びが可能になっています。これをさらに発展させ、学生たちがあらゆる分野にアクセスが可能なシステムとしていこうと考えています。研究については、研究インキュベーターとして機能する学術センター制度を活用して、学問を深化させる研究、あるいは新たな分野創成に向けた研究を見出し、支援していこうと考えています。また、産学連携活動を通じて、研究成果の社会への還元を推進して参ります。

世界はこれまでも10年から20年毎に数々の危機に遭遇してきましたが、そのたびにアカデミアは解決のために重要な役割を果たしてきました。今、大学は、新しい日常が豊かなものになるように、未来に向けて社会が待ち望む新たな価値を創造するための努力を払うべきだと考えています。

茗溪会におかれましてはますますのご発展をお祈りするとともに、引き続き本学へのご支援をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

# 一般社団法人 茗溪会(令和3年度) 第10回定時総会議事(要旨)

一般社団法人茗溪会第10回定時総会は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症で混乱する中、令和3年5月29日(土)13時30分から茗溪会館2階「茗溪」の間及びオンラインによって開催されました。議事に先立ち、議長である江田理事長から、社員総会運営規程第5条2に基づき、本日法人職員3名(室岡大塚・筑波事務所長、大根田局長代理、會田局長代理)が出席し、司会及び議案説明等を行うことについて提案があり、了承されました。次に、大根田局長代理から、代議員(社員)総数93名のうち、会場出席者5名、オンライン出席者35名、委任状による出席者43名、合計83名の出席があり、定款第



大根田局長代理

17条により定時総会は成立する、という報告がありました。

## 理事長挨拶

冒頭、江田理事長から、新型コロナウイルス禍の困難な時期だが、本年度は茗溪会が新法人としてスタートして10年が経つ歴史的に重要な時期となっております。総会開催の事情についてご了解願いたい。前年度はコロナ禍の影響で、年度会費等の大きな減少により諸活動に影響があったが、一方でオンライン活用によるOB・OGキャリアカフェ等の新機軸の活動があり、高く評価されました。茗溪創基10年記念事業は、令和元年よりスタートし、



議長江田理事長

をお願いしたい、との挨拶がありました(P4参照)。続いて、欠席された筑波大学学長からの挨拶文が紹介されました(P5参照)。

いよいよ後半の2年目に入ることとなり、会員各位が何らかの形で参加・参画できることを念頭に置き諸企画を進めているので、当会発展のために特段のご理解と更なるご協力を

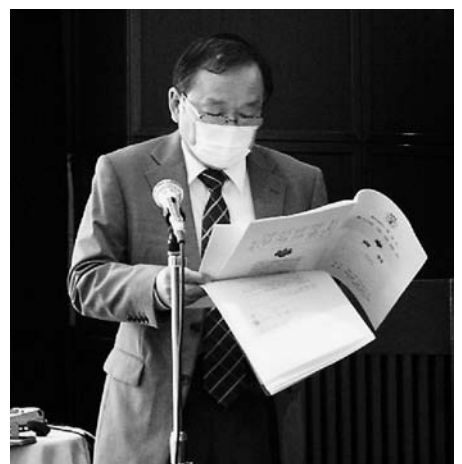
## 議長就任、開会宣言及び議事録署名

次に、定款第15条により理事長が議長につき、議長から、第10回定時総会を開催するとの開会宣言がありました。次いで、定款第19条により本総会の議事録は議長及び総会において選任された議事録署名人名2名が署名押印することになっており、本総会選出の議事録署名人名2名に中村頼司代議員と渡邊悟代議員を選出して、議事に入りました。

## 審議事項

第1号議案 令和2年度事業報告、決算書類及び監査報告の承認について

定款第40条により、本議案の事業報告、決算書類は、事業年度終了後の第61回理事会で監事の監査を含めて承認を得ているが、承認を得た事業報告は、本総会にその内容を報告し、貸借対照表及び正味財産増減計算書は、本総会で承認を受けなければならないとされています。総会の決議は、定款第17条により、出席した社員の議決



會田局長代理

一括審議、一括承認の流れで諮りたいとの発言がありました。

これを受けて、令和2年度の事業報告及び令和2年度予算・実績対比表、貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表附属明細書、財務諸表に対する注記について、それぞれ概要説明があり、高野監事から、令和2年度会計期間における会計・業務の監査結果は、法令又は定款に違反する事実はなく適正と認めるとの報告がありました。

これに対して、代議員から、季刊誌「茗溪」の発行部数について質問があり、担当者から、住所不明者には送付しない等の対応をしているとの説明がありました。また、建物賃貸収入の状況についての質問があり、昨年度株式会社シーズンとの賃貸契約の変更を行い、保証金は家賃に充当した旨の説明がありました。

次いで、



高野監事

権の過半数をもって行うことになったとの説明があり、また、本議案審議の進め方については、一括提案



第一生命保険に保証金14億円を2045年に一括返却する計画についての質問があり、会費収入の減少により厳しい状況ではあるが、収入増の体制を整備していきたいとの説明がありました。

以上を受けて、議長が、本議案を一括して諮ったところ、本議案は賛成多数で可決承認されました。

### 第2号議案 令和3年度事業計画(案)及び予算(案)について

本議案は、第60回理事会及び第61回理事会において審議し、若干の修正部分については第61回理事会で承認を得ているという説明があり、議長から、本議案は一括提案説明、一括審議、一括承認の流れで諮りたいとの発言がありました。

これを受け、令和3年度事業計画(案)及び令和3年度予算(案)について、それぞれ概要の説明がありました。以上を受けて、議長から、本議案を一括して諮ったところ、本議案は賛成多数で可決承認されました。

### 報告事項

#### (1) 茗溪創基150年記念事業について

記念事業実行委員長である川田常務理事から、本事業のグランドテーマ「伝承と創造」、基本的な考え方、150年



川田理事



廣田理事

記念事業実行(準備)委員会の設置、行事・事業、記念誌の編纂等についての概要の説明がありました。また、令和3年10月3日(日)に「茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会」を開催し、次いでその翌年令和4年4月29日(金)に記念式典を開催するほか、記念誌の編纂が進んでいることなどの委員会所掌事項の進捗状況について報告がありました。「仲間に元氣と勇氣を与える茗溪会」となるような記念事業にしたい、と熱い思いの説明がありました。

#### (2) 茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会について

組織委員長でもある担当の廣田理事から、茗溪創基150年記念事業の一環として、そしてこれまでの「茗溪・筑波産業人倶楽部」の進展状況のまとめとして、令和3年10月3日(日)13時から茗溪会館において、茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会を開催する予定であるとの説明がありました。会では、長瀬要石氏の講演「コロナ禍を越えて明日を拓く(仮題)」及び全国展開発表の部としてこれまでの活動状況の報告やシンポジウムを行う予定となっているという説明がありました。

### 諸連絡等

#### (1) 会員登録・会費納入状況等について

会員登録状況、年度別会費納入状況、2020年度

各地域組織納入者明細について説明がありました。

#### (2) 各地域組織等からの連絡文書について

地域組織等からの連絡文書について説明があり、連絡文書の様式(様式1から様式4)は、茗溪HPからダウンロードして提出願いたい、また、春秋の叙勲受章者の連絡用紙、地域組織等の組織表、地域組織等の総会理事派遣依頼及び公益事業開催計画の連絡は、必ず提出願いたいとの要請がありました。

#### (3) 代議員選挙について

代議員選挙規定及び令和3年度構成人員に基づく代議員推薦数について説明があり、令和4・5年度の代議員立候補届出書、代議員候補者推薦書及び代議員候補者名簿については、各提出期限までに提出願いたいと要請がありました。

### 閉会

江田理事長から閉会宣言がなされ、総会は終了しました。

この後、1都4県(東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城)の地域組織の会長等が集まり、協議・懇親の会が開かれました。



室岡所長

# 令和2年度決算報告

## 貸借対照表

令和3年3月31日

(単位：千円)

科 目	当 年 度
<b>I 資産の部</b>	
<b>1. 流動資産</b>	
現金預金	81,742
未収消費税	
流動資産合計	81,742
<b>2. 固定資産</b>	
固定性預金	324,503
建物	630,187
構築物	2,908
機械装置	1,622
什器備品	341
土地	314,776
固定資産合計	1,274,337
<b>資産合計</b>	<b>1,356,080</b>
<b>II 負債の部</b>	
<b>1. 流動負債</b>	
前受金	24,782
未払法人税	9,858
未払消費税	299
預り金	273
流動負債合計	35,211
<b>2. 固定負債</b>	
退職給与引当金	1,766
満期共済金引当金	18,350
保証金	1,400,000
修繕費積立金	0
固定負債合計	1,420,116
<b>負債合計</b>	<b>1,455,328</b>
<b>III 正味財産の部</b>	
一般正味財産	△99,248
正味財産合計	△99,248
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>1,356,080</b>

## 正味財産増減計算表

2020年4月1日から2021年3月31日

(単位：千円)

科 目	当 年 度
<b>I 一般正味財産増減の部</b>	
<b>1 経常増減の部</b>	
(1) 経常収益	
基本財産運用収益	
地代収入	71,310
建物賃貸収入	16,405
会費収入	
正会員受取会費	16,543
茗溪フェロー会費	1,450
事業収益	
委託料収入	1,749
広告料収入	2,190
寄附金	
寄附金収入	8,476
退職給付引当金取崩収入	5,210
退職給付引当金戻入益	0
雑収益	
受取利息	16
駐車場利用収入	1,208
雑収益	1,169
経常収益計	125,726
(2) 経常費用	
事業費	
給与手当費	23,244
式典事業費	0
旅費交通費	0
負担金	10
通信運搬費	4,539
印刷製本費	2,330
水道光熱費	2,056
業務委託費	5,190
租税公課	23,202
修繕費	3,202
火災保険料	872
助成金	676
退職給付費用	576
占春園支出	0
管理費	
監事報酬	100
臨時雇賃金	0
退職金	5,210
福利厚生費	43
総会諸費	208
会議費	98
旅費交通費	524
通信運搬費	1,448
什器備品費	498
消耗品費	419
印刷製本費	1,763
集金費	1,759
諸謝金	766
負担金	29
会員データ管理費	2,838
渉外費	3
賃借料	630
減価償却費	32,734
租税公課	10,156
雑費	53
経常費用計	125,179
当期経常増減額	547
<b>2 経常外増減の部</b>	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
固定資産除却損	0
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	547
一般正味財産期首残高	△99,795
一般正味財産期末残高	△99,248
<b>IV 正味財産期末残高</b>	<b>△99,248</b>

## 収支計算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位：千円)

科 目	当 年 度
<b>I 事業活動収支の部</b>	
<b>1. 事業活動収入</b>	
(1) 事業活動収入	
会費収入	17,993
正会員会費収入	16,543
フェロー収入	1,450
事業収益	91,654
地代収入	71,310
建物賃貸収入	16,405
委託料収入	1,749
広告料収入	2,190
寄付金収入	8,476
寄付金収入	8,476
雑収入	2,393
駐車場利用収入他	1,208
受取利息収入	16
その他雑収入	1,169
退職給付引当金取崩収入	5,210
退職給付引当金取崩	5,210
事業活動収入計	125,726
(2) 事業活動支出	
事業費支出	75,478
管理費	16,390
事業活動支出計	91,868
事業活動収支差額	33,858

# 令和3年度 一般社団法人 茗溪会 事業計画

## 1. 事業計画のねらい

- (1) 茗溪創基150年記念事業の推進を図り、それを機に、将来を見通して、より積極的な事業展開を目指す。
- (2) 地域組織等の活動の充実・活性化事業を推進する。
- (3) 地域組織を基盤に、教育界と産業界（官界を含む）を二本立てとして組織化を推進する。
- (4) 新規会員の獲得・正会員の増加及び会費納入率アップのための組織的・計画的な活動を推進する。

## 2. 事業の目的（定款第3条）

会員相互の親睦及び互助並びに知徳の啓発を図り、併せて国立大学法人筑波大学の目的及び使命の達成に協力し、学術、文化、教育並びに社会貢献活動及び国際相互理解の促進に資する事を目的とする。

## 3. 事業の内容（定款第4条）

- (1) 会員相互の親睦を図るための交流事業並びに会員の福祉を図るための共済に関する事業
  - ① 教育界各組織の活動推進
  - ② 産業界・官界各組織（「茗溪・筑波産業人倶楽部」等）の活動推進
  - ③ ホームページの充実による交流促進
  - ④ 追悼のつどいの実施
- (2) 定期刊行物その他出版物などの発行に関する事業
  - ① 季刊誌「茗溪」の発行
- (3) 研修会、講演会、公開講座等会員その他の教養向上と地域社会への貢献に資する事業
  - ① 公開講座の実施
  - ② 地域組織等主催による公開講座への助成
- (4) 学術、芸術、社会貢献、国際相互理解等の顕著な活動に対する奨学、支援、表彰などに関する事業
  - ① 学生及び同窓の諸活動への助成事業
- (5) 財産の管理・運営に関する事業
  - ① 茗溪創基150年記念事業を機とした財政の再編強化
    - ・会費の増収を図るための施策の立案と実施
      - イ 会員名簿を整備し、各地域と等の連絡調整態勢を確立する
      - ロ 新会員の入会促進策の立案と実施
      - ハ 旧乙会員の正会員への掘り起こし策の立案と実施
  - ② 茗溪会館の利活用を安定・向上させる事業
- (6) 教育の振興、普及活動に資する事業
  - ① 筑波大学側と地域組織等との交流
  - ② 筑波大学と協力して学生のキャリア形成
  - ③ 教職受験対策研修会の開催
- (7) 茗溪創基150年記念事業の準備・推進
- (8) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

## 4. 前項の各事業は、全国において行うものとする

## 令和3年度予算書

令和3年4月1日～令和4年3月31日

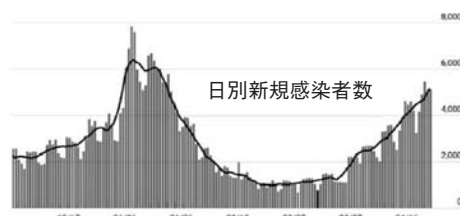
(単位：千円)

科 目	R3年度予算	科 目	R3年度予算	科 目	R3年度予算
<b>I 事業活動収支の部</b>		(2) 事業活動支出		総会諸費支出	1,500
1. 事業活動収入		事業費支出	83,564	会議費支出	600
(1) 事業活動収入		給料手当支出	22,507	旅費交通費支出	500
会費収入	17,993	助成金支出	4,100	通信運搬費支出	2,000
正会員会費収入	16,543	式典費支出	800	集金費支出	1,759
フェロー収入	1,450	旅費交通費支出	900	什器備品費支出	448
事業収益	86,469	負担金支出	100	消耗品費支出	377
地代収入	71,310	通信運搬費支出	5,970	印刷製本費支出	1,586
建物賃貸収入	11,220	印刷製本費支出	3,160	会員データ管理費支出	2,838
委託料収入	1,749	租税公課支出	33,358	諸謝金支出	766
広告料収入	2,190	業務委託費支出	5,741	負担金支出	29
寄付金収入	36	光熱水料費支出	2,056	渉外費支出	50
寄付金収入	36	火災保険料支出	872	賃借料支出	630
雑収入	2,133	修繕費支出	4,000	雑支出	50
駐車場利用収入	924	管理費	17,142	予備費	2,000
受取利息収入	9	監事報酬	150	事業活動支出計	100,706
その他雑収入	1,200	給料手当	0	事業活動収支差額	7,692
退職給付引当金取崩	1,767	臨時雇賃金	50		
退職給付引当金取崩	1,767	退職金支出	1,766		
事業活動収入計	108,398	福利厚生費	43		

# 茗溪創基150年

## 記念誌編纂のこと

No.2 明治5年  
～令和4年



データ出典元：CDC・WHO・ECDC・Wikipedia・The New York Times

### ◆昭和六(一九三二)年のこと

令和3年4月24日(土)の正午、理事長室である。江田昌佑理事長(S30教体)の卒寿の記念写真である。この日、茗溪創基一五〇年記念事業実行準備委員会、企画委員会、理事会と、諸会議が立て込んでいた。慌ただしい合間の一コマである。

一昨年、米寿の祝賀は三法人(社)茗溪会、(学)茗溪学園、(財)学都資金財団)懇親の席で盛大に行われた。卒寿の祝いは、感染禍の中で会合の予定も立たぬまま誕生日が近づき、事務局で内々に行うことにしたのであった。懇親の席は設けず、花束と事務局員の寄せ書き、それとささやかな贈り物をお渡しするだけとなった。

事務局は大塚の茗溪会館と筑波の大学会館にあるが、時節柄、所員全員が集まることは控えた。理事長を囲む所員の中に廣田則夫(S53筑社、組織委員長)がいる。この日茗溪会館にやってきた理事は廣田だけであった。

理事長の誕生日は4月23日(金)である。その日、菅義偉首相は、改正特別措置法に基づく3度目の緊急事態宣言を東京、大阪、京都、兵庫の4都府県に発令した。期間は4月25日から17日間で、酒類を出す飲食店や大型商



前列中央に江田理事長  
前列向って左 埜渡局長補佐、向って右 野崎所員  
後列向って左から前田所員、大根田所長代理、  
會田経理担当、室岡大塚事務所長(筑波事務所所長兼務)、  
廣田理事、小山所員、右端矢野事務局長

業施設が休業要請の対象となった。世界の感染者累計は、145,943、305人を数えた。

事務局長の矢野は、出席予定の理事にオンライン参加への変更を要請していた。結果、理事長と事務局長を除いた参加理事17名の内、事務局長と懇談の予定があった

廣田理事を除き、16名がオンライン参加となった。

理事会当日は、日本全国で新規感染者約5、142人(累計562、141人)が確認された。

江田は、茗溪会9代目の理事長である。歴代で在任中に卒寿を迎えた理事長はいない。江田は、歴代最高齢の理事長で、昭和六(一九三二)年の生まれである。

この年は、日本にとって、そして母校と茗溪会にとっても、決して忘れることのできない年となった。『茗溪会七十年史』は以下のように概説している。

「昭和6年から昭和27年の今日までの20年間は、わが国歴史あつて以来の大変動期で、中国の昔であつたら(天柱折れ、地維くたく)と形容したかも知れないほどの大破壊が、わが民族の上に降りかかつて来たのである。その中であつて、わが茗溪会はよくその使命を見失わず、命脈をつないで来たものである」(前掲書p15)

勅令第37号(官立文理科大学官制)により、茗溪の悲願が「必成」となった年は、株式市場の暴落『Black Tuesday(1929/10/24)』によって世界を惨禍に陥れた年でもあった。一九二三年に発生した関東大震災の傷跡は「震災手形」の不良債権化として膿となり、世界恐慌が追い打ちをかけた。震災と恐慌によって引き起こされた「昭和恐慌」を背景に、軍部による事態の打開が大陸進出として企図された。昭和6年、この年の秋に起きた満州事変である。この事件を機に、日本は戦争の渦に巻き込まれていくこととなる。しかし、この年の出来事は、それだけにとどまらなかった。

\*\*\*\*\*  
これは『茗溪創基一五〇年記念誌』(以後『記念誌』と略)の初稿の一部である。現段階では、p80の該当部分、茗溪会や母校にとって波瀾の幕開けの書き出し部分である。

昭和六年における茗溪会の出来事が綴られている。

この年の夏、茗溪会を中心に「母校廃止反対運動」が闘い抜かれた。

その秋、茗溪会の協賛の下「母校創立六十年記念賀」が挙行された。「母校廃止反対運動」に邁進する真夏の只中に、「校運を祝福し、爽籟進展を祈るため」、祝賀資金の募集に奔走し、学校側の諸計画に参画した。

そして、「母校廃止反対運動」を開始してから二週間を経た夏の日である。文部省が廃校を見送る形となり、この日を境に、一連の動きは収束に向けて動き出した。母校にとって運命的となったこの日、茗溪会は地鎮祭を挙行した。小石川区大塚町56、陸軍兵器廠跡、現茗溪会館の敷地であった。

以後、昭和六年に関連する記述は二〇頁ほどに及ぶ。

\*\*\*\*\*

## ◆『茗溪創基一五〇年記念誌』について

『記念誌』については、茗溪会本部と茗溪会地域組織についての記述と、大きく分けることができます。地域組織の歩みにつきましては、各地域から労作をお届けいただき、その一部は今年の季刊誌『茗溪』（正月1107号）で「記念誌編纂のこと」の中で、7頁にわたりご紹介させていただきます。最終の校正に向けて作業を進めています。今回はその第2弾で、茗溪会と母校についての記述の一部をご覧ください。

『記念誌』のつくりは以下のように考えています。

- B5版、横一段、37字×37行、600頁程度
- 字体MS明朝体、10ポイント
- 数字1桁（全角）2桁以上（半角）
- 英字（半角）
- 写真等を挿入するなど親しみと読み易さに留意

## ◆茗溪に関わる思い出の写真を募集

全国の会員が茗溪創基一五〇年記念事業への一つの参加の在り方として企画させていただきます。季刊誌『茗溪』（春1108号）で呼びかけさせていただきますましたが、反応があまりよくありません。

貴重な思い出の資料です。ご提供いただくだけでなく、お預かりいただく形でもかまいませんので、どうぞよろしくご協力いただければと存じます。

本来でしたら、お声がけいただければ、お訪ねして、写真にまつわるお話や、ご提供いただく方のお人柄や思い出話などに直接触れることが出来ればと思えますが、時節柄、それができない状況にございます。ご容赦ください。

### 【ご提供の仕方】

- ① 電送  
peer@meikei.or.jp  
\*info@meikei.or.jpでも  
かまいませんが、他の  
メールに紛れてしまう  
不都合がございます。
- ② 郵送  
〒112-0012  
文京区大塚1-5-23  
茗溪会館内
- ③ ご相談  
写真のご提供等でお困り  
不明の場合は、以下にお  
問い合わせください。  
☎03-3941-0136

- ① ご提供いただいた写真の活用につきましては、季刊誌に記念事業特設コーナーを設置し、公開させていただきます。
- ② その一部は、『記念誌』の資料として活用させていただきます。

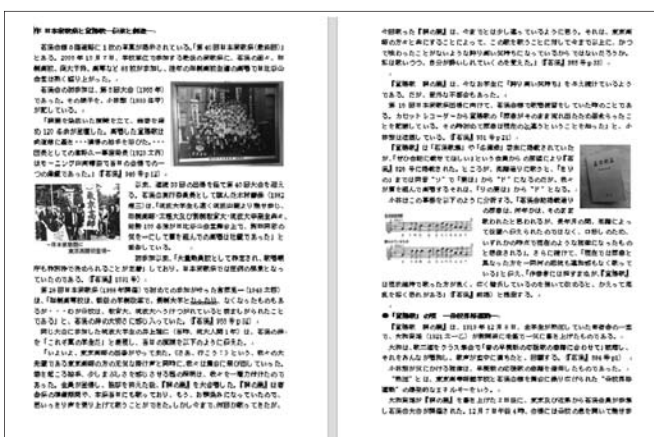
## ◆『記念誌』の試読めるのは味見

「仲間」に元氣と勇氣を与える茗溪会、これが茗溪創基一五〇年記念事業のサブタイトルですが、その元氣と勇氣の根源は、グランドテーマ「伝承と創造」にほかなりません。「伝承と創造」こそが、われわれ茗溪人の拠つて立つ基盤にほかなりませんし、『記念誌』に一貫するのはその精神です。また、編集趣旨(3)として、「茗溪会会員及び筑波大学学生が、母校の歴史と茗溪会の歩みを知ることにより、仲間相互の絆を強める資料とする」とあります。それを、意識しています。ただ単に編年体で記述する方法をとらず、現在や当時と結び付けたり、特定の時代とある時代を関連付けたり、ある出来事と他の出来事を関連付け、新たな発見の場となるような、そのような書きぶりに終始しました。その点、ご容赦願いたいと存じます。

これから、試読していただくものは、最初の書き出し部分です。「最初の書き出し」という言い方は妙ですが、どうしてもそう表現すべきと思ったのでそうさせていただきます。ただし、あくまでも初稿レベルで、記述変更は大いにあり得ます。あくまでも仮原稿として、お取り扱ってください。

左に掲載しているのは、『記念誌』のつくりに従って構成した原稿の縮小版の一部です。

写真を多用するようにしていますが、手持ちの写真は季刊誌や過去の記録誌などに掲載されていたものを借用させていただきますので、目新しいものはありません。それも含めてご一読いただければと存じます。



- 予定価格 一冊8,000円程度
- 印刷部数 1,000冊程度
- 3万円以上の寄付者には無償で提供いたします。
- 購入希望は、産業人倶楽部全国展開発表の会や茗溪創基150年記念式典及び季刊誌送付時やSNS等において購入申込書を配布させていただきます。

○「試食会」は購入促進の商法ですが、購入のご判断を、より適確にさせていただくための情報提供とも考えています。それでは、区切りのいいところまで「一読ください」。

## 序 寮歌祭と宣揚歌 — 伝承と創造 —

茗溪会館5階通路に、一枚の写真が掲示されている。

「第40回日本寮歌祭（最終回）」とある。2000年10月7日、学校単位で参加する最後の寮歌祭に、茗溪の面々、旧制高校、商大予科、高専など58校が参加し、往年の旧制高校生達の高唱で日比谷公会堂は熱く盛り上がった。

茗溪会の初参加は、第8回大会（1968年）であった。その様子を、小林繁（S8体甲）が記している。



～日本寮歌祭に  
東京高師初登場～

「桐葉を染抜いた旗幟を立て、鉢巻を締め120名余が登壇した。高唱した宣揚歌は武道館に轟き：満場の拍手を浴びた。：団長としての津野久一事務局長（T12文丙）はモーニング山高帽姿で当日の会場での一つの偉観であった。」（『茗溪』96号p12）

以来、連続33回の出場を経て第40回大会を迎える。茗溪会実行委員長として臨んだ木村善保（S27理三）は、「筑波大学生も遠く筑波山麓より馳せ参じ、旧制高師・文理大及び新制教育大・筑波大卒業生共々、総勢100名強が日比谷公会堂舞台上で、新旧同窓の気を一にして肩を組んでの高唱は壮観であった」と報告している。



初参加以来、「大量動員校として特定され、歌唱順序も特別枠で決められることが定着」しており、日本寮歌祭では恒例の風景となっていたのである。（『茗溪』10031号）

第25回日本寮歌祭（1985年開催）で初めての参加が叶った宮原一（S18文四）は、「旧制高専校は、戦後の学制改革で、新制大学となったり、なくなったりしたものもあるが：わが母校は、教育大、筑波大へうけつがれていると羨ましがられたことである」と、茗溪の絆に感じ入っていた。（『茗溪』98号p32）

同じ大会に参加した筑波大学生の井上雅仁（当時、筑大人間一年）は、茗溪の絆を「これぞ真の学生だ」と表現し、当日の模様を以下のように伝えた。

「いよいよ、東京高師の出番がやって来た。《さあ、行こう！》という、我々の先輩である東京高師の方の元気な掛け声と同時に、我々は舞台上飛び出していった。巻き起こる拍手、少しまぶしさを感じさせる程の照明は、我々を一層力付けたのであった。全員が登場し、挨拶を終えた後、『桐の葉』を大合唱した。『桐の葉』は宿舍祭の準備期間や、本祭当日にも歌っており、もう、お馴染みになっていたもので、思いつき声を張り上げて歌うことができた。しかし今まで、何回か歌ってきたが、今回歌った『桐の葉』は、今までは少し違っているように思う。それは、東京高師の方々と共にすることによって、この歌を歌うことに対して今まで以上に、かつて味わったことがないような誇り高い気持ちになっているからではないだろうか。私は歌いつつ、自分が酔いしれていくのを覚えた。」（『茗溪』98号p33）

『宣揚歌 桐の葉』は、今なお学生に「誇り高い気持ち」を与え続けているようである。だが、意外な不都合もあった。

第16回日本寮歌祭出場に向けて、茗溪会館で歌唱練習をしていた時のことである。カセットレコーダーから宣揚歌の「原曲がそのまま流れ出たため面喰らったことを記憶している。その時初めて原曲は現在のと違うということを知った」と、小林繁は述懐している。（『茗溪』931号p21）

『宣揚歌』は「茗溪歌集」や「名簿録」巻末に掲載されていたが、「ぜひ会誌に載せてほしい」という会員からの要望により、『茗溪』96号に掲載された。ところが、楽譜通りに歌うと、「きりの」までは同音ソソで「葉は」からドドになるのだが、我々が肩を組んで高唱するそれは、「りの葉は」からドドとなる。



広く膾炙しているのを強いて改めると、かえって混乱を招く恐れがある」（『茗溪』前掲）と提案する。

### ●「宣揚歌」の頃 — 母校昇格運動 —

『宣揚歌 桐の葉』は、1919年12月5日、全学生が熱狂していた寄宿舎の一室で、大和資雄（T10文一乙）が新聞紙に毛筆で一筆書き上げたものである。

大和は、歌二連をクラス集会で、「昔の早慶戦の応援歌の曲譜に合わせて」披露し、それをみんなが唱和し、歌声が室中に満ちたと、回顧する。（『茗溪』854号p1）小林繁が気にかける旋律は、早慶戦の応援歌の曲譜を借用したものであった。

小林はこの事態を以下のように分析する。「茗溪会誌掲載通りの原曲は、何年かは、そのまま歌われたと思われるが、長年月の間、楽譜によって後輩へ伝えられたのではなく、口移しのため、いずれかの時点で現在のような旋律になったものと思われる。さらに続けて「現在では原曲と異なった方を一同何の抵抗も違和感もなく歌っている」と伝え、「作曲者には相すまぬが、『宣揚歌』は現状維持で歌った方が良く、

「熱狂」とは、東京高等師範学校と茗溪会館を舞台に繰り広げられた「母校昇格運動」の爆発的なエネルギーをいう。

大和資雄が『桐の葉』を書き上げた二日後に、東京及び近県から茗溪会員が参集し茗溪会大会が開催された。12月7日午後4時、会場には母校の急を聞いて馳せ参じた会員、そして、「階上には700名の学生団が『宣揚歌』を高唱して、これに和し、沈痛悲壮の気堂に溢る」(『茗溪会百年史』p190)。

驚くべきことに、二日前に作られた『宣揚歌』を学生達は既に謳い上げていたのである。その歌詞がいかに當時の気分を象徴していたかは、容易に想像できる。

大和は二日前の夜の熱狂を綴る。クラス集会で「桐の葉」が唱和される一方で、級友達が「早速この歌詞を謄写」し、夕食時に食堂で寮生に配られた。故横尾真太郎君がピアノの上に立って音頭をとり、あれよという間に「桐の葉」の歌声は全寮に拡まってしまった。(『茗溪』854号p1)



茗溪会、教授会、学生会代表による報告、会員17名、学生2名、教授3名に続き、嘉納校長が演説に立って、その夜の熱狂が最高潮に達した。

大和は述懐する。「思い出は嘉納治五郎先生の声だ。大正8年の12月7日、あの嵐の茗溪会大会に、涙をのんで彼が訴えた演説の声だ。45年の歳月を越えて、今も耳にひびく悲痛な声だ。これは異常なことだった。

なぜなら常日頃の彼は、まことに屈託ない、朗らかな調子で：この上もなく楽天的な話ばかり聴かせていたからである。しかるに当日の彼は、憤激やるかたない胸の中を、教授と学生と校友たちとに、ぶちまけたのであった。(『茗溪』871号p14)

演説は一時間に及んだ。この間、「400の会員、700の学生、100余の職員、感極まり手巾を擁して号泣慟哭、列席新聞記者又私かに面を伏して涙に咽ぶものあり。」(『茗溪会百年史』p192)

12月とはいえ、講堂は、12000名の熱気と「茗溪会空前の悲壮沈痛」で充たされたにちがいない。

大和資雄は、その熱気とともに2人の茗溪会員を「当時の学生一同が、おそらく終生忘れないであろう」と述懐する。

一人は、茗溪会母校昇格運動実行委員長に推された川村理助(M23博)で、その雄姿を「悠揚迫らざる態度、整然たる理路、そして力強い雄弁」と表現し、他の一人、為藤五郎(M44凶手芸)の立居振舞を「発火せざる爆弾を投ずる勿れといった彼の熱弁は今なお耳に聞える」(『茗溪』871号p14)と伝えた。

回廊を取り巻く学生の中には、第8回日本寮歌祭で同窓を率いた津野久一、そして同じく予科生だった柴田周吉(T12文二)の姿もあった(『茗溪』871号、前掲)。熱気に身を置いていた柴田は茗溪会第6代理事長として、『茗溪会百年史』の「序」で、「わが国の大学の同窓会で百年を経て今日も本会のごとく活力を保持し、洋々たる前途をもつものは数少ないであろう」と書き出し、その最も大きな力として、幾多の困難にも「一致結束した同窓会員の危機感と愛校心」だと言う。

我々は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大で鬱屈する時代に、茗溪創基150年を迎えようとしている。大正期に始まり昭和初期にかけて繰り広げられた母校昇格運動は、我々の時代より100年程前の事柄ではあるが、当時は、「スペイン風邪」が世界を恐慌に陥れた時代でもあった。その只中で、教職員、学生、卒業生が母校の昇格運動に立ち上がったが、その「三角同盟」を支えたのが茗溪会であり、同窓達の活動であった。

\*\*\*\*\*

## ◆「記念誌」試読会はこちらにつづく

以上が、最初の書き出し部分です。続いて、「伝承と継承の一五〇年史」―「よく戦いよく順応した」という柴田周吉の総括をベースに、第一部の構成について説明したあと、いよいよ、

第二章 茗溪会前期 へと話が動き出す手筈です。

第二章は、さらに三つの時代から構成されます。

・湯島時代(1882-1885)

・本郷元町時代(1885-1905)

・大塚窪町時代(1905-1932)

冒頭にご紹介した「昭和六年(一九三二年)のこと」は、大塚窪町時代、第一章の締め括りの役を与えられています。

若し皆様から写真を提供いただければ、その紹介とともに、「記念誌」の一部をこれからも少しずつ紹介させていただきます。テキストを感じ取っていただければと思います。

左図は茗溪会館近在の方からご提供いただいた古地図です。本郷元町時代の一節に登場します。予定では「記念誌」p16あたりでしょうか。



- ① 本郷区元町の新茗溪会事務所
- ② 本郷区湯島の旧茗溪会事務所
- ③ 神田明神
- ④ 東京師範学校
- ⑤ 東京高等師範学校大塚新校舎
- ⑥ 現茗溪会館

# 茗溪創基150年

## 記念事業のいっし

二年後の9月1日に関東大震災が起きている。

『記念誌』（P91予定）の一部を引用する。

「母校昇格運動」はスペイン風邪によるパンデミックの只中、大正8年（1919）の冬に繰り広げられた。第一回東京箱根間往復大学駅伝競走が挙行されたのは、翌年の大正9年（1920）2月14日、「母校昇格運動」からわずか3か月後のことであった。それから百年後の令和元年（2020）に、筑波大学は第96回箱根駅伝への61回目の出場を果たした。26年ぶりであった。同窓の応援参加は往復路併せて二五〇〇人を数えた。

その一月後、2月4日夜、運航会社が乗客の下船を延期する旨を公表、加えて次回クルーズの運航中止を顧客に通知した。ダイヤモンド・プリンセスには、56カ国の乗客2666人と1045人の乗務員、計3711人が船内に乗船していた。2月5日、ダイヤモンド・プリンセス船内において10人の感染者が確認され、感染症法に基づき、神奈川県内の医療機関に全員搬送された。また、早朝から、クルーズ船に対して14日間の検疫が開始された。武漢報道に始まる新型コロナウイルス感染症が、ついに日本で現実化した瞬間であった。以降、蔓延防止対策や緊急事態宣言の発令下で今日を迎える。

定時総会終了後に、東京の代議員から「茗溪会館を新型コロナウイルス予防ワクチンの接種会場に活用してほしい」という要望があった。翌週月曜日から、文京区の担当職員と具体的な受け入れ方法を検討中である。

その報を聞いて、思い出した。日本全国でパンデミックが終息したのは大正10年（1921）であったが、その



2万余点の慰問品をトラックに積んで各所の罹災者に配った。収集した被服類を茗溪会事務所前で日光消毒している慰問隊。

この年、加藤首相は東京文理科大学設置案を含む予算案が第46帝国議会に再提出し、文理科大学の設立が確定している。その後、加藤首相は急逝し、1週間を経た9月1日（土）に関東大震災が起きた。母校の施設は、文部省と女高師に借り出された。文部省は本館に仮事務所を設け、女高師は東館と西館に仮教室を開いた。

茗溪会は、慰問隊を編成して物品贈与、会員弔慰問のための醸金など、救援活動を活発に展開した。大震災という未曾有の危機に遭遇した茗溪会は二つの事業を立ち上げた。この年の夜間中学の開校、そして、翌年の共済会の設立である。



茗溪中学に殺到した志願生

罹災者の子弟や学ぶに学校無く途方に暮れる青少年を対象とした夜間中学の設立は、その冬のことであった。茗溪会として「もつと永続的な事業をして災害対策に役立てたい」という意見からその動きが始まった。急を要するので、為藤五郎など有志が実行に移り、趣旨に賛同した20名によって協議された。学科編成、職員組織、生徒募集、後者の設備経費、文部省や母校との交渉などを手分けして検討することとなり、その夜は散会した。その後、主事会で夜間中学設立を茗溪会の事業として展開することとなり、計画が急速に具体化した。

夜間中学の校名を「茗溪中学」、茗溪会事務所を活用することとし、無月謝無試験とした。

茗溪中学の設置は、震災救済事業ということで、文部省や東京府などの正規の手続きは不要となった。

為藤達はタクシーで50枚ほどのポスターを市内の要所に貼って廻った。その後会員、学生の助勢を得て、約100枚のポスターと5,000枚のチラシを作成し、数日かけて全市に宣伝した。10月末のことである。

願書締切日までに願書を取りに来たものは500名を越えたので、罹災者を優先し、口頭試問と身体検査の結果、123名を合格とした。夜間中学ということもあり、生徒の履歴や境遇も種々雑多で、下級生には官衛、事務員、給仕、巡査、新聞配達など多様な面々であった。夜間中学は、補習学校、職業学校、労働者学校ともいえるし、高校進学予備校の一面をも備えていた。

生徒数は、その後増加して、231名、以下の構成となっていた。



1学年	72名
2学年	43名
3学年	60名
4学年	45名
5学年	14名

教える側である。この趣旨に賛同して無報酬で奉仕したいという茗溪会員の申し出は52名に達した。修身、国漢、英語、数学、地歴、博物の担当は、高師、学習院、女高師、商大などの教授、教諭、訓導、そして視学官といった多彩な面々であり、さながら「日本一の夜間中学」（『茗溪会百年史』p.253）の陣容であった。校長は馬上孝太郎（M32文）が当たった。運営経費として、茗溪会は1,500円ほどを計上した。

震災の翌週、東京商業会議所に約40名の実業家が集まり、座長を務めた洪沢栄一（1840-1931）が民間有志による救護・復興に関する組織を提案し、これに貴族院・衆議院議員有志も加わって、「大震災善後会」が結成された。善後会は、その目的を「罹災者救済及び経済復興」と定め、資金配付が必要な事柄の調査と寄付金の募集を始めていた。善後会は、孤児院や、労働者のための託児所の設置、罹災外国人の支援など、多くの事業に資金を配分したが、茗溪中学にも一万円が寄贈された。

（『記念誌』初稿より）

## 新型コロナウイルス感染症拡大下の茗溪会

このパンデミックの中で、茗溪会は支援について考えました。「なにができるか」です。「なにができるか」を一押しするのは「とりあえず」の一声、あるいは一歩を踏み出す勇氣かと思えます。

大正にはパンデミックとパニックがありました。二つの恐慌の只中で茗溪の諸先輩は「大学昇格運動」や「箱根駅伝の創始」、あるいは「慰問隊の編成」や「夜間中学の開設」、「共済会の設立」に果敢に取り組んだ。

関東大震災の翌年の大正13年（1924）である。

『記念誌』（p.53予定）の一部を引用する。



茗溪会館のエントランスホールは、レストラン「嘉ノ雅」への入り口でもある。奥行きのある空間の左手に重厚な古時計が見える。

時計の横に「寄贈 大塚講話会」と記されている。大塚講話会は、1915年に創部された。講話会の活動はグループを組んで小・中学校、高等女学校などに巡回講話を行うもので、活動範囲は津々浦々に及んでいた。創部10年目に編纂された『実演お話集』（全9巻）は、その活動の成果であり、全国の教員や師範学校生に愛読され判を重ねた。

『実演お話集』刊行の前年1924年は、大学リーグ発足の年である。「この第一回のリーグ戦に優勝した」と、当時4年生であった竹内虎士（S1体甲）は、サッカー部の活躍ぶりを記している。（『茗溪』91号）

「その時代はサッカーばかりでなく、陸上競技では金栗齊藤、野口、納戸、水泳では宮畑など万国オリンピック選手が輩出し、極東大会など10名以上の選手が出場している。その他柔道では桜庭、岡部、剣道では高野、佐藤と御前試合の連中が並んでいた。文科系の活動では大塚講話会が全国をまたにかけて活動し……」（前掲書）と、竹内は回顧する。

「当時の学校の気風は廃校か昇格かの危機の時代であったし、その反発力もあったので、全日本的意識がみなぎっていた」と、竹内が言うように、この錚々たる群像は、嘉納の「憤激やるかたない胸の中」（『茗溪』81号）を共有していた。学生達は、「茗溪会空前の悲壮沈痛」（前掲書）を忘れていなかった。憤激のやるかたなさは、「一地方的なものの考え方や意識」では収まりきらず、「国

際選手にでもならねば人前で大きな顔の出来なかった。」（前掲書）そういう時代であった。

（『記念誌』初稿より）

\*\*\*\*\*

### ◆教育界と産業界（官界も含む）の二本立て

今年の定時総会でも、「教育界と産業界（官界も含む）を二本立てとして組織化を推進する」ことが事業計画のねらいとして打ち出されてきました。このねらいは令和に入ってから明快に打ち出されています。もちろん、地域組織の活性化の一助たりうることを目指し、地域組織を大前提としての二本立てであることは間違いありません。

戦後、茗溪会が組織的に「産業界」の組織化に動き出したのは昭和40年（1965）の「業界懇談会」です。津野事務局長の呼びかけで、茗溪人事部主催で開かれました。翌年は「業界・官界茗溪会員懇親会」として、丸ビル精養軒で開催されています。第3回も同様の内容で昭和42年（1967）に開催されました。

翌年（1968）、「日本寮歌祭への参加呼びかけ」がなされ、第8回日本寮歌祭に初出場しています。学園紛争の只中であったことは記憶にあるかと思えます。

第3回「業界・官界茗溪会員懇親会」から5年を経た昭和47年（1972）に第4回が開催され、以降10年の空白を経て、昭和55年（1980）に「茗溪マスコミ会」（仮称）として再開しています。

「茗溪マスコミ会」と並立する形で、「教職中心の支部組織では対応しきれなくなっていくことを危惧」（『茗溪』97号）し、昭和60年（1985）の「茗溪企業人幹部懇談会」や昭和62年（1987）の「産業界茗溪会」、平成元年（1989）には、虎ノ門茗溪会設立発起人会」が「実業家、官界の茗溪会員が相集い、情報の交換、親睦を深めるための茗溪同窓会」（『茗溪』983号）として開催が試みられていました。

### ◆茗溪・筑波産業界倶楽部全国展開発表の云

茗溪創基一五〇年を機に、企画された「茗溪・筑波産

## 茗溪創基150年記念事業 茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会

- 日 時 令和3年10月3日(日) 13:00~16:00  
○ 場 所 茗溪会館 2階「茗溪の間」

### 1. 講話の部

- (1) 挨拶：茗溪会理事長  
(2) 講話：「コロナ禍を越えて明日を拓く」(仮題)  
講 師：長瀬 要石氏(教大農経 1960年卒、茗溪会穆談会)

### 2. 全国展開発表の部

- (1) 挨拶：井口副理事長(茗溪・筑波産業人倶楽部運営部参与)  
来賓挨拶：佐藤 忍(特別理事)  
(2) 報 告：  
「産業人倶楽部」発足の歩み 廣田理事(茗溪会組織委員長)  
「産業人倶楽部」主催の「OB・OGキャリアカフェの活動」  
(3) シンポジウム：全国各ブロックの動向「設立と未来に向かって」  
関東・甲信越ブロック、近畿ブロック、九州ブロック、その他  
(4) 意見交換  
(5) 記念写真・宣揚歌

### 3. 懇親の部

### 4. 閉 会

#### ◆ 講師紹介 長瀬 要石(ながせ ようせき)氏 略 歴

昭和35年	東京教育大学 農村経済学科卒業
同年	農林省入省
昭和41年	経済企画庁(現内閣府)に出向・移籍
昭和49年	大臣秘書官(福田赳夫副総理・経済企画庁長官)
昭和61年	通商産業省中小企業庁指導部長
平成元年	国土庁計画・調整局長
平成3年	経済企画庁物価局長
平成4年	経済企画庁総合計画局長
同年	経済企画庁調整局長
平成5年	(財)機械振興協会副会長・経済研究所長
平成8年	(株)富士通総研副理事長
平成9年	海外経済協力基金副総裁
平成11年	国際協力銀行副総裁
平成14年	コーエイ総研会長
現 在	NPO法人開発政策研究機構理事 公益財団法人都市化研究公室評議員会議長

#### 著 述

- 「分水嶺に立つ日本経済」(1995、筑波書房)  
「日本経済の分水嶺—平成から令和へ」(2019、22世紀アート)  
「評伝 福田赳夫」(共著)(岩波書店、2021.7刊行予定)ほか

#### ◆ 講話「コロナ禍を越えて明日を拓く」(仮題)要旨

- ★コロナ禍は、各国の統治力の巧拙を白日のもとに晒した。日本はどうか。石油危機やバブル崩壊の経験と対比しながら、日本社会の強みと統治の弱みを捉えてみたい。  
★危機は、経済や産業、働き方や住まい方、国際関係などの転換を促すきっかけとなる。日本はこのコロナ禍を、明日への適応と転換のチャンスとしてどう生かしたらよいか。  
★コロナ禍で、2020年代がかかえる日本の課題は難しさを増した。平成が令和に先送りした重荷にコロナ禍のツケが上乗せされたからである。もはや、課題解決の先送りは許されないだろう。

業人倶楽部」は、首都圏に限らず各地域(地域ブロック)等を単位として、教育界と産業界(官界も含む)の大同団結を目指すことを企図してきました。全国展開を目指すという意図は、これまでも一線を画します。各地域の積極果敢な試行錯誤を期待するばかりです。「仲間に元氣と勇氣を与える茗溪会」をサブタイトルとして、「伝承と創造」のグラントテーマのもとに、茗溪創基一五〇年記念事業が展開されてきました。

直近では、「茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会」が予定されています。(左資料を参照)  
『茗溪』正月号(1107号)に、各地域からの活動報告等を一挙掲載させていただきました。その中で共通していたのは、茗溪会が、「教員だけの会」という印象のまま運営されてきたことを「半ば必然的ともいえるべき組織的・将来的課題」(埼玉支部)として認識し、事態を打開しようとする動きが始まっているということでした。

この動きの集約こそが今回の「茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会」とお考え下さい。茗溪創基一五〇年を機に、茗溪は新たな一歩を踏み出す。その組織づくりや活動を根本から考えていきたいという動きであり、課題共有の機会とお考え下さい。  
参加は自由です。久しぶりの全国レベルの会合です。「秋の定時総会」とお考えいただき、新型コロナの事情次第ではありますが、ぜひぜひ、ご参加下さるようお願い申し上げます。

# Peer Garden

交流広場  
茗溪創基150年記念事業

同じ大学を卒業したということだけでは、  
つながりを強く感じられないと思います  
ふたつ目の理由が必要かと思うのですが  
それが「茗溪」なんじゃないですか？  
ある学生の発言より

●学部、学群等の同窓組織、会合、諸活動

NO	同窓組織、会合、諸活動	開催年月日	開催場所	参加数	掲載号
191	2018言語学科ミニ同窓会	2018/6/29	さぬき倶楽部(港区三田)	6	1099
192	第11回大塚人文地理学OB会	2018/7/1	アルカディア市ヶ谷(私学会館)	21	1099
193	三六会(昭和36年東京教育大学農学部林学科)	2018/6/10	柴又帝釈天「川千家」	9	1099
194	教大体育学部昭和35年卒 バレーボール部同期の集い	2018/6/25	浜名湖かんざんじ温泉「時わすれ開華亭」	12	1099
195	漕艇部 昭和59年入学同期会	2018/9/22	筑波山「ホテル青木屋」	14	1099
196	筑波大学人文学類4期生6クラス還暦クラス会	2018/9/15	茗溪会館 あけぼのの間	10	1100
197	筑波大学農林学類3期生会	2018/10/28	嘉ノ雅茗溪館	17	1100
198	東京教育大学教育学科(s33入学)クラス会	2018/10/4	静岡県焼津市「松風閣」	9	1100
199	東京教育大学体育学部体育学科(s46入学)同期会	2018/10/27	機山館	49	1100
200	東京教育大学農学部総合農学科(s39卒)同窓会	2018/10/24	ハートピア熱海	9	1100
201	東京教育大学文学部英文科(s34卒)同期会	2018/11/12	KKRホテル東京(大手町)	18	1100
202	茗総33会(東京教育大学農学部総合農学科s33卒)	2018/10/16	品川シンガポールシーフードレパブリック	8	1100
203	東茗会例会(東京高師・東京文理科大・東京教育大・筑波大)東洋史在京OB会	2018/11/25	池袋西口「はなの舞」	7	1100
204	東京教育大体育学部昭和34年卒業女性の会	2018/10/26	渋谷エクセル東急	12	1100
205	筑波大学第二学群生物学類1期・2期・3期合同同窓会	2018/11/10	嘉ノ雅茗溪館	72	1101
206	筑波大学柔道部1・2期生合同会	2018/12/15	伊豆長岡温泉「陶芸の宿はなぶさ」	16	1101
207	東京教育大学・筑波大学アーチェリー部創立60周年を祝う会	2018/11/17	アリス アクア ガーデン 東京 丸の内	54	1102
208	高野先生叙勲お祝い 昭和42年入学心理学科クラス会	2019/4/4	美濃吉(池袋)	9	1102
209	江崎グリコ 筑波大学OBOG歓迎会	2019/4/16	焼鳥屋 勝商店(東梅田)	7	1102
210	昭和56年3月卒業人文学類日本史コース同期会	2019/4/20	筑波大学	9	1102
211	三六会(昭和36年卒東京教育大学農学部林学科)	2019/6/21	銀座アスター渋谷店	11	1102
212	東京教育大学体育学部昭和33年卒同期会	2019/5/20	「栄寿司」新宿西口	27	1102
213	山紫会(東京教育大学 文学部 東洋史学専攻 昭和34年入学者の会)	2019/6/23	天徳院(東京都中野区)占春園・茗溪会館	9	1102

- \* 今回も、季刊誌『茗溪』(1099~1102号、平成30~令和元年)の「桐の葉のつどい」に掲載された順に、一覧にしています。
- \* ご紹介事項に追記、訂正等ございましたらご連絡をお願いします。
- \* これまでご紹介させていただきました以外に、同窓組織や会合、活動等がございましたら、お知らせ下さい。  
E-mail address : peer@meikei.or.jp
- \* 茗溪会員様には、`嘉ノ雅`茗溪館(かのびめいけいかん)での割引がございます。是非ご利用下さい。  
メールアドレス : info@kanobi.com/ 電話 : 03-5319-1890(予約・お問合せ)



No. 195



No. 196



No. 206



No. 209



No. 207

## 茗溪の絆

茗溪創基150年記念事業として、本誌上で同窓の交流を図る企画です。今回も「学類・学部」の交流を紹介いたします。

195番の「漕艇部」は、卒業30周年を記念して懐かしい筑波の地へ集まりました。196番は通称「じんろく」、人文学類6クラス会担任の金原礼子先生をお招きしてのアラウンド還暦の会です。206番の「筑波大学柔道部」は草創期の苦楽を共にした1・2期生の合同会です。207番の「教大・筑大アーチェリー部」は弓道部から洋弓を独立して創部し、昭和53年筑波大学へ引き継がれ、平成29年に60周年を迎えたお祝いの会です。

209番の「江崎グリコ筑波大学OB・OG 歓迎会」は、企業内の筑波大学卒業生の年代も役職も超え懇親を図っている会です。皆さん笑顔で楽しいご様子です。

各県の寄付者数  
2021/6/20 現在

北海道・東北	北海道	15
	青森	2
	岩手	10
	秋田	9
	宮城	8
関東甲信越	山形	9
	福島	12
	茨城	115
	栃木	13
	群馬	14
	埼玉	60
	千葉	54
	東京都	197
	神奈川県	150
	山梨	13
北陸・東海	長野	20
	新潟	13
	富山	12
	石川	6
	福井	4
近畿	岐阜	6
	静岡	24
	三重	5
	愛知	38
	滋賀	2
中国・四国	京都	8
	大阪	18
	兵庫	20
	奈良	6
	和歌山	2
	岡山	2
	広島	7
	鳥取	6
	島根	4
	山口	4
九州・沖縄	香徳	8
	愛媛	6
	高知	7
	福岡	3
	佐賀	10
	長崎	2
	熊本	4
大分	2	
宮崎	2	
鹿児島	4	
沖縄	4	
合計	947	

茗溪創基一五〇年記念の寄付の募集を始めてから、2年を経ました。思いもよらぬ新型コロナウイルス禍の中でも、ご寄付は続いており、現在、950人ほどから約1千8百万円のご寄付をお預かりしております。

最近、多くいただくお問合せは、「いま、私の寄付はいくらほどになっているか教えてほしい」「寄付を振り込んだのだけれど、受け取っていますか」「四万円以上の寄付はできないのか」…これが代表的なご質問です。これらご質問の中には、明らかに事務局側の配慮不足があったことに気づかされました。

# 茗溪創基150年 記念基金のこと

◎寄付申込額 18,522,294円

◎寄付申込者 950名

・平均寄付額 19,497円

(2021/6/20現在)

事務局側の改善点は後程

寄付の募集期間は？

令和元年から茗溪創基百五十年目の年(令和4年)まで、4年間と考えております。

寄付の申込みは一回きりですか？

何回でもできます。また、期間は4年間ですから、どの時点からでも申し込みたいだけです。事務局は、ご寄付の名寄せ台帳を作成し管理しておりますので、複数回のご寄付でも、毎回のご寄付が一定額でなくても、累積額として登録されますので、ご安心ください。また、4万円以上はできないのかというお問い合わせが多くございますが、喜んで頂戴いたします。

申込み用紙を紛失したのですが？

ご請求いただければ、送付させていただきます。毎号の季刊誌送付時に申込み用紙を同封させていただいておりますので、ご利用ください。また「茗溪会ホームページ」からダウンロードできます。

個人ではなく法人からの寄付はできますか？

もちろんできます。会社名でも部署名でもかまいません。また個人事業様も事業名等でご寄附いただければと思います。

申込み手続きと寄付支払いとの関連がわからない。

支払いに、現金渡し、振込み、引落し、払込み、カード払いがありますが、事故回避の観点から、ゆうちょ銀行と銀行口座への振込み方法を採用しています。

それでも、氏名漏れや姓だけのものがあり、寄付者の特定が困難となります。折角の寄付です。このような都合を回避すべく、事前に申込用紙をいただいております。趣旨ご理解の上、申込用紙には、氏名、住所、電話番号、メールアドレスを必ずご記入願います。

茗溪創基150年記念  
高額寄付者御芳名一覧  
顕彰

茗溪創基150年記念に際し  
多額の醸金をされました。  
ご貢献に対し此にその名を刻  
し永く敬意と感謝を表します

令和4年 吉日  
一般社団法人 茗溪会



また、高額のご寄附(4万円以上)を戴いた方の御芳名を茗溪会館5階エントランス窓側の板壁にコーナーを設置し、永年掲示とさせていただきます。

左はイメージ図です。木盤(60cm×60cm)をくり抜いた型にステンレス等の名板(長さ8cm×高さ2.5cm)を嵌め込んでいきます。木盤一枚に60名の御芳名をご紹介します。



〇〇〇〇〇〇様  
金〇〇〇〇〇〇円

この度は茗溪創基150年記念に際し、  
貴重なご寄付を戴き感謝申し上げます。

茗溪会理事長 江田昌佑  
令和3(2021)年6月24日

醸金内訳

- ・金〇〇〇〇〇円 (2020/8/14)
- ・金〇〇〇〇〇円 (2020/12/8)
- ・金〇〇〇〇〇円 (2021/3/14)
- ・金〇〇〇〇〇円 (2021/5/31)

葉書サイズ、裏面は茗溪会館の  
写真を考えています。

先に紹介させていただいたご質問は、事務局の配慮不足も原因かと思えます。そこで、新たに左のような領収書(感謝状を兼ねて)を、ご寄附いただいた方々にご送付させていただきます。

茗溪創基150年 協力者ご芳名

ご協力ありがとうございます

2021年6月20日現在

※ご寄付いただきました方の中で、掲載をご希望されない方を除いています。(ご協力者人数 767名)

Table with 10 columns of names and surnames, listing 767 individuals who supported the project. The names are arranged in vertical columns from right to left.

(五十音順・敬称略) 茗溪学園 学校法人



日常生活では知を含む2文字熟語はたくさんあります。知識、知覚、知恵、才知、知事、知人、知性、予知、熟知等非常にバラエティーに富んだ言葉になります。私たちが皆様に提供できるのはこれらの言葉の中で知恵、才知が対応すると思います。

さて、新型コロナウイルスが変異し、その脅威は首都圏、関西圏から全国に広まってしまいました。政府は国民に対してワクチン接種を進めています。一日も早く、全国民が接種を終了することを望みます。

このような状況ですので、この企画の主目的であり、まず講師の各支部への派遣が難しくなっています。その代わりの提供として、2つのコーナーを設けることにしました。

その1として、名誉教授の先生が執筆・編集しました出版物の紹介およびその書評です。今回は田中喜代次先生が編集代表の出版物「健幸華齢のためのスマートライフ」を紹介いたします。その書評は八代勉先生がお書きくださいました。

その2として、今後、派遣講師の方から書面講義をしていただく予定です。

(大嶋建一記)

## ◆ 名誉教授の書籍、書評紹介コーナー

### 「健幸華齢のためのスマートライフ」

(ISBN 978-4-904011-84-3 C2047)

本書は平成28～30年度日本スポーツ協会 スポーツ医・科学研究プロジェクト「運動・スポーツ習慣の定着を企画した健幸華齢支援プログラムの開発」の成果として編集・出版したものです。

編集代表…田中喜代次(名誉教授、(株)THF代表取締役)  
編集委員…大月 直美(株)THF)、

小澤多賀子(NPO法人日本健康加齢推進機構)

プロジェクト研究班員 6名、

プロジェクト研究協力者 35名

本の大きさ…B5判 全24ページ

発行所…(株)サンライフ企画

発行年月日…2019年6月30日

「Successful Aging (サクセスフルエイジング)」という言葉をお聞きになったことがあるかと思えます。この言葉の示す内容について熟考し、あえて日本語に訳すと、「健やかで、幸せに、華やかに、歳(よわい)を重ねる」という意味になり、私どもが提唱している「健幸華齢」の概念と重なります。

QOL (Quality of Life: 生活の質、人生の質)を良好に保ったまま生涯を閉じることが理想で、その実現形を「健幸華齢」と言えるのではないのでしょうか。人生が長くなればなるほど、がん、脳卒中、その他の疾病で投薬や手術などの医学的治療を受ける人が多くなります。手術を含め、日常的に治療を受けながらも、その病とうまく付き合う術を見出し、自立した生活を送るスマートな生き方・術の修得が肝要だと考えます。その修得によって毎日の生活が充実し、心が満たされ、老い(齢)の積

み重ね)を愉しむことができるものと思います。

そのための具体策として、本書ではそれぞれの分野の専門家が、

- (1) スマートダイエット(賢い食べ方)…体をつくる元となる栄養をバランス良く摂ること、
- (2) スマートエクササイズ(運動の賢い楽しみ方)…日々をアクティブに過ごせる体力を維持すること、
- (3) スマート服薬(賢い服薬方法)…薬を飲み過ぎず、Body Talk (体との対話)を通して精査すること、
- (4) スマート脳トレ(賢い脳トレ)…人と交流し、仲間と楽しみながら音楽や芸能、脳トレなど認知機能の保持・向上に取り組むこと、

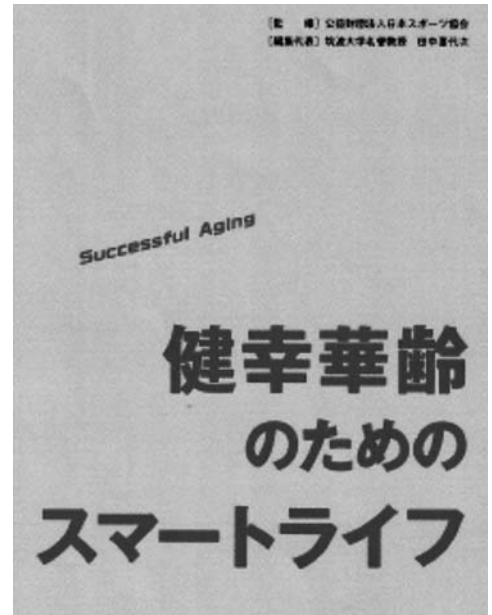
について詳細な説明を行っています。そして、これら4つの日常化によって「健幸華齢」な生き方を実現できる確率が高まるであろうと説いております。

本書を通じて読者の多くが「健幸華齢」な人生に資する活動を展開していただけることを切に願っております。

(田中喜代次記)

## 目次概要

- 第1章…健幸華齢のためのスマートライフ
- 第2章…健幸華齢のためのスマートエクササイズ(総論)
- 第3章…健幸華齢のためのスマートエクササイズ(各論)
- 第4章…健幸華齢のためのスマートダイエット
- 第5章…健幸華齢のためのスマート脳トレ
- 第6章…健幸華齢のためのスマート服薬
- 第7章…その他スマートライフのための知識等
- 第8章…総合型地域スポーツクラブ



書評

本書の編集代表田中喜代次氏は筑波大学名誉教授の会のメンバーであり、株式会社T H F (T sukuba Health Frontier) の創業社長であります。T H F は筑波大学の研究成果活用企業として、田中氏が在職中に立ち上げた企業です。大学の法人化が進められる中で、国からの財

政支援が縮小され、大学独自の資金獲得活動が奨励されるようになりました。T H F は大学内に起業されたベンチャー企業の一つであり、本書に実例として掲載されているように、広く地方自治体をはじめ「良質の健康づくり」に取り組み組織や個人に対する健幸華齡社会の醸成を支援している企業です。

本書は、「運動・スポーツ習慣の定着を企図した健幸華齡支援プログラムの開発」をテーマにした平成28〜30年の研究プロジェクトの成果をまとめられたものですが、その背景には田中氏の30年を超える健康長寿社会の構築を企図した研究開発の実践が存在していますし、エヴィデンスに基づくメッセージづくりへの意欲で満ちています。

高齢者が人口の30%を占める高齢社会にあつて、しかもパンデミックにより世界中の人々が心身ともに疲弊虚弱化している現状下にあつて、それでも夢をもって元気に生きていくための知恵が満載された素晴らしい著書です。自分の生き方を独自に描いていくためのヒントを与えてくれることでしょう。

(八代 勉記)

◆派遣講師の情報(追加)

2108 田中喜代次

- ・専門分野…健康増進学、老年体力学、健幸華齡学、スポーツ医学
- ・担当学群…大学院…体育専門学群、人間総合科学研究科スポーツ医学
- ・出身…滋賀県
- ・抱負…欧米では、QOL(生活の質、人生の質)を良好に保ったまま生涯を閉じることをSuccessful Agingと言います。この言葉の示す内容をよく考え日本語に訳

すと、「健やかで、幸せに、華やかに、歳を重ねる」という表記になり、私が提唱している「健幸華齡」の概念と重なります。人生が長くなればなるほど、がん、脳卒中、その他の疾病で投薬や手術などの医学的治療を受ける人が多くなります。手術を含め、日常的に治療を受けながらも、その病とうまく付き合う術を見出し、自立した生活を送ることが肝要です。検査値の異常に一喜一憂するのではなく、毎日の生活が充実し、心が満たされながら古い(齢の積み重ね)を愉しんでいたため4つの重要な柱を掲げています。

- ① スマートダイエット(賢い食べ方)
  - ② スマートエクササイズ(運動の賢い楽しみ方)
  - ③ スマート服薬(賢い服薬方法)
  - ④ スマート脳トレ(賢い脳トレ)
- 皆さんが多くの方の「健幸華齡」な人生に資する活動を展開していただけることを切に願っております。
- ・講演テーマ…
- (1) 健幸華齡のためのスマートライフ
  - (2) スマートダイエット、スマートエクササイズ、スマート脳トレ、スマート服薬



四つ葉のクローバー  
(花言葉：幸運)

# それぞれのオンライン

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のために、各種の会合の開催が難しい状況になりました。総会、講演会や研修会も開催できずに、年を越した支部も多いかと思えます。本部におきましても、理事会や各委員会がオンラインを活用した開催が試行されました。

神奈川茗溪会は、昨年、若手交流会を開催しました。レストランを会場としたオンラインによる開催でした。従来型と新規試みの併せ技（ハイブリッド開催）は参考になりそうなので、その顛末を紹介します。

## ●「神奈川茗溪会 若手交流会」開催始末記

「このまま会合を開かないでいると自然消滅しちゃう」「せめてオンラインでいいから、会合は開けないの？」常日頃に顔を合せているわけでない同窓会などは、年に一度の絆の確認がなければ消滅するかも、そういう不安の中、「オンライン開催」に向けて動き出すのですが、役員といえば、やっとスマホに辿り着いたレベル。そうした支部役員の戸惑いとうろたえを尻目に、若手交流会の幹事たちは、オンライン開催に向けて、知恵や技術を共有・駆使しながら実現に向けて動き出します。コロナ下での打合せはすべてメールでした。

## ●「神奈川茗溪会 若手交流会」開催要項

### 【開催】

- ・令和2年11月21日(土) 午後6時から
- ・会場「大陸」(横浜駅スカイビル) 予約済み

### 【形態】

- ・リアル対面とZOOM併用のハイブリッド開催
- \*状況によっては、ZOOMのみの対応も準備
- ・発信内容 ミニ講演会と懇親会の様子。
- 「今年 話題の船」(仮題)

合田浩之(H15筑博 東海大教授、元日本郵船勤務)

### 【準備】

- ・ZOOMライセンスを取得しておく
- ・モバイルWiFiを準備し、会場内で事前テスト
- ・配信用と講演会用のノートPC、プロジェクター、延長コード。投影は会場の壁で代用

## 【コロナ対策】

- ・8人用テーブルを3人掛けとし、小皿提供依頼
- ・時短 速めのコース料理の提供を依頼

## ●若手交流会幹事たちのメールのやりとり

《第9回交流会は新型コロナウイルス感染症の動向を注視し、リアルとZOOM併用のハイブリッド開催、ZOOMのみでの開催の両方を、引き続き検討しております。》

令和2年10月25日  
(日)夜半の連絡である。開催方法について迷いが見受けられる。横浜駅スカイビルの中華料理店大陸は馴染の会場である。

その日、都内の感染者数が100人を超えるのは6日連続で、累計が3万人を超えた。

《大陸にWiFi環境がありません。モバイルWiFi、お持ちでないでしょうか。現時点、スマホデザリングしか案がありません。もしかししたらZOOM配信用のノートPCもお願いするかもしれません。》

《テーブルは8人用ですが、密を避けるため3人ずつで分けることも可能です。下見に行った時、大皿ではなく個別に分けても可能だと言っていました。うちの職場も雲行きが怪しくなってきました。》

頻繁に、幹事のメールのやりとりが続く。

《昨日、「大陸」に下見に行きました。WiFiは店内だと接続出来ませんでした。どうしよう。》



合田浩之氏(H15筑博)のミニプレゼン会の様子。壁にPPを投影しながら、タイムリーでとても興味深い内容でした。

《持つて行ける会議用マイクスピーカーは、大人数には対応できませんが、円卓なら十分かと思えます。会場の雑音状況によりますが、ノイズはかなりカットされると思います。小型で、お安いです。》

《ZOOMライセンスをお持ちのようで100名まで参加可能とのこと。プロジェクターも大陸までお持ちいただけるとのことでした。さすがとしか言いようがない。》

《AC電源利用は、大陸から許可もらっています。恐縮ですが、延長コードもご持参お願いしたいです。大陸の参加者が少数の場合、小部屋となります。前回は大部屋で壁に投影しました。今回の小部屋も壁に投影となりますが、投影スペースは小さくなります。》

《ノートPCは2台用意します。マイク・スピーカーを置けば、音声はテーブルの延長という感じになると思います。回転テーブルの中央に置けないかしら?》

《あつという間に一ヶ月が過ぎてしまいました。リアルで参加された皆様、その後、体調はいかがでしょう。もし体調不良等ありましたら、至急、幹事までお知らせください。それは来年も皆様にお会いできるのを楽しみにしております。》



Zoom画面に乾杯する加藤会長代行と森幹事

後日談である。会場参加者8名、オンライン参加者6名のこじんまりとした会合になった。しかし一年に一度しか会えない人と対話ができた。それというのも会場参加者とオンライン参加者はプロジェクターによる壁への投影を行うことで、一体感を出し、会場にいる司会役が時々オンライン参加者に発言を振ったり、参加者からも発言をもらったりして会の一体感を深めてゆく運営を行ったからだ。司会役の気遣いのフライングプレーだった。



# 筑波大学は今

## SEAMEO Congress 2021 UTM/永田学長が講演

4月28日・29日の2日間、東南アジア教育大臣機構(SEAMEO)が主催するSEAMEO Congress 2021がオンラインで開催され、永田恭介学長が講演を行いました。

SEAMEO Congress 2021のテーマは“Transforming Southeast Asian Education, Science and Culture in the Digital Age”。2日間にわたり多数のセッションが開催され、永田学長は“Transforming Education in the Post COVID-19 Era”をテーマとしたPlenary Sessionにて講演を行い、参加者からの質問にも回答しました。

また磯田正美教授(教育開発国際協力研究センター(CRICED)センター長/人間系)、野村名可男准教授(東南アジア・台湾地域担当者/生命環境系)も“Teaching and Learning Innovation and Research”をテーマとしたセッションで講演を行ったほか、オンラインに設けられたブースにて参加者へ本学やCRICEDの紹介を行いました。

本学はSEAMEOの日本で唯一のアフリーエイトメンバーで、毎年2月に本学とSEAMEOが共催で国際会議を行うなど活発な交流があります。

今後も東南アジアの機関との交流促進が期待されます。



講演をする永田学長

## 新型コロナウイルス感染症対策研究の成果を公開 「筑波大学」知「活用プログラム」

研究戦略イニシアティブ推進機構は、令和3年5月より、本学の幅広い研究分野を駆使し、世界規模で拡がる

新型コロナウイルスによる危機的状況の解消を目指すプロジェクトとして、学内公募型研究助成「新型コロナウイルス緊急対策のための大学『知』活用支援プログラム」を実施してきました。このたび、その助成期間が終了し、全27の研究プロジェクトの成果を、インタビュー記事としてウェブサイトで公開しました。

本プログラムを通して、ウイルス、健康維持、心理ケア、教育システム、人の移動や密集、情報拡散、文化・芸術振興、家族関係など、私たちの暮らしに関わる多様な課題に対する研究成果が生み出され、すでに教育現場などでの活用が始まっている事例もあります。本ウェブサイトで、これらの成果がわかりやすく紹介されています。

[https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight\\_covid19\\_interview/](https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight_covid19_interview/)

## 博士後期課程の入門ガイドを発行

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター/学生部就職課では、学外も含めたより多くの学生が、将来への見通しや目的意識を持って博士後期課程で研究に取り組めるよう、ガイドブック『博士後期課程の入門ガイド』(ようこそ多様な博士世界へ)を発行しました。タイトルには、博士後期課程での学びが彩り豊かな未来へつながっているという想いを込めました。作成にあたっては、学生の意見を取り入れ、学業・就職・経済等の学内外のサポート体制や、博士号取得後のキャリアパスの事例等について紹介しています。また、研究を通して身に付く力は、どの専門分野であつても、アカデミア・産業界問わず普遍的に活かせるものであることも伝えています。

博士人材のためのキャリア支援サイトでPDF版を掲載中  
[https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/?page\\_id=11634](https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/?page_id=11634)

## 令和3年度 科学技术分野の文部科学大臣 表彰を受賞した本学研究者7名を学長表彰

令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技

術賞」及び「若手科学者賞」を受賞した本学の研究者7名に対し、本学の研究者の優れた業績が社会に広く認められる機会となり、本学の名誉を高めることに貢献されたとして、6月9日に永田恭介学長から学長表彰を行いました。

なお、若手科学者賞受賞者の方へ、その功績を称え、筑波大学若手教員特別奨励賞を授与し、表彰楯の贈呈及び副賞として30万円の研究費を支援いたしました。

## ◆科学技術賞

原 和彦 数理解物質系 准教授  
谷口 守 システム情報系 教授

## ◆若手科学者賞

(高度な研究開発能力を有する若手研究者を対象)  
岡本 直樹 生存ダイナミクス研究センター 助教  
久保 倫子 生命環境系 助教  
橋本 拓也 数理解物質系 助教  
原田 隆平 計算科学研究センター 准教授  
平野 有沙 医学医療系(国際統合睡眠医科学研究機構) 助教

## 令和3年度科学技術週間イベントを開催

令和3年度(第62回)科学技術週間イベントを4月12日~18日に開催しました。

例年この期間には、キャンパスでさまざまなイベントを実施し、延べ1,000名を超す来場者を迎えていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、特設サイトでの動画配信という形を取りました。学内で配信動画の募集をしたところ、42本の提供があり、期間中の再生数は延べ約3,500と、多くの方に視聴していただきました。イベントで実際に体験することは残念ながらありませんでしたが、オンライン配信を通じて、場所や世代に関わらず、気軽に動画を視聴することができるようになり、本学の教育研究活動をより多くの方々に知っていただく機会となりました。

# 茗溪学園だより

## 個人課題研究中間発表会開催

令和3年度の個人課題研究中間発表会が、7月2日、本校体育館を会場に開催されました。

新型コロナウィルスの影響で、昨年は実施できませんでしたので、2年ぶりの発表会となりました。発表形式はポスター発表で、高校2年生全員283名（IB課程生徒は除く）が発表します。全体を4グループに分け、各発表者は30分間で4回発表を繰り返します（発表4分、質疑2分）。発表しない生徒は、発表を聞く側で、この間に4人の発表を選んで聞くこととなります。これを4グループが交代して行くと、2時間の発表時間で、全員が発表し、生徒はそれぞれに12の研究発表を聞くことができます、というものです。

この個人課題研究は、高校1年の秋に始まります。夏休みを前にしたこの時期に中間発表会として全員にポスター発表の機会を設け、生徒たちはここでいただく評価や指導をもとに、夏休み中にさらなる実験、調査、考察を深め、10月1日に論文を完成させて提出することになっています。

提出された論文をもとに、12月にパワーポイントを使って全員が口頭発表を行うことになっています。



体育館内で同時に70名が発表する



先生からの厳しい質問に答える



テーマは「睡眠の質と影響因子」

インターハイ（全国高校総合体育大会、全国高体連主催）出場は、運動部に所属する高校生が最終目標とする大会です。本校でも、剣道部、バドミントン部、体操部、テニス部、ラグビー部などが、出場実績を持っています。

今年、剣道女子個人の部で県大会優勝し、悲願のインターハイ出場を果たしました。茨城県の女子剣道は守谷高校という全国的にみても最高レベルの学校があり、県全体としても優秀な選手が多くいる県のため、本校生徒が優勝するのは相当に高い壁となっていました。それを、遂に突破しての快挙でした。本生徒の母親も、

## この夏の留学生11名

この夏、11名の生徒がそれぞれの留学先の国に出発します。昨年度、新型コロナの影響で延期措置になっていた生徒が7名、それに今年度の新規留学生が4名加わりこの人数になりました。

渡航先は、アメリカ2名、カナダ2名、ドイツ2名、イギリス、アイルランド、フィンランド、ハンガリー、イタリアと8カ国に及びます。冬の出発が決まっている生徒もいますので、留学生の数もさらに増えていきます。

本校は建学の理念に、『世界的日本人』を育成する」と謳い、海外に目を向ける教育環境を整えています。国際教育部という分掌があり、生徒達へのサポートも手厚く行っています。おかげさまで、留学希望生徒も多く、外国人留学生の受け入れも進んでいますので、国際的な諸活動がますます活発化され、国際社会に目を向ける学校の雰囲気醸成されています。

ただ、受け入れについては、現在、本校に入学予定の留学生8名が、新型コロナの影響もあって来日できず、自国で本校からのオンライン授業を受けている状況です。少しでも早く感染症の問題が解消されて、国際交流が再開できるようにすることを願っています。

## 夏のインターハイに挑む

インターハイ（全国高校総合体育大会、全国高体連主催）出場は、運動部に所属する高校生が最終目標とする大会です。本校でも、剣道部、バドミントン部、体操部、テニス部、ラグビー部などが、出場実績を持っています。



男女とも躍進著しい高校バドミントン部  
関東大会での集合写真

## 部活動など結果報告(3～6月)

- ◎**高校ラグビー部**：第22回全国選抜大会結果2回戦進出ベスト16、関東大会結果Aグループ4位、第8回全国7人制大会出場(県大会優勝、7月長野県菅平開催)
- ◎**高校バドミントン部**：関東大会結果男女とも3回戦進出ベスト16、インターハイ県予選男子団体優勝インターハイ出場(2年連続4回目)、男子単および男子複もインターハイ出場(8月富山県開催)、女子は県予選準優勝
- ◎**高校剣道部**：関東大会結果男女とも3回戦進出ベスト16、女子個人ベスト8、インターハイ県予選女子個人優勝インターハイ出場(8月石川県開催)・女子個人3位
- ◎**高校体操部**：個人男子インターハイ出場(8月新潟県開催)
- ◎**高校軟式野球部**：関東大会結果準決勝進出第3位

本校そして筑波大学を通じて剣道部に所属し、親子共々に剣士であります。積み重ねてきた努力が開花しました。

バドミントン部は、男子団体で昨年に続き県大会連覇を果たし、4回目の出場となりました。しかも、シングルスもダブルスでも県代表となりました。男子では完全制覇といえる活躍です。

体操部は、男子個人の部での出場です。開催地は、北陸地区で、剣道が石川県、バドミントンが富山県、体操が新潟県となっています。

本校の運動部員達は、学業と両立させて練習に励んできました。この大会は、部活の区切りとなるものです。悔いのないプレーを期待しています。

ラグビー部は、日本ラグビー協会主催の全国高校7人制大会に出場します。オリンピック種目の7人制ラグビーですが、この大会が始まって以来本校は県代表として連続出場をしています。昨年の分も含めて2年分の勝利を目指して欲しいと思います。

## 追悼録 (敬称略)

逝去会員氏名・卒年科・地域・  
逝去年月日・続き柄・遺族氏名

石川 俊夫	19体専	香川	R2. 6.17	長男	石川 邦彦	遠藤 収	33教大経	東京	R3. 2.13	長男	遠藤 佳孝
岡崎 知光	22理四	茨城	R3. 3. 1	長女	高橋 一砂	大木 健夫	33教大数	千葉	R2. 5. 1	妻	大木 久枝
伊藤 幸男	22大数	山形	R2.12.28	妻	伊藤 和子	盛大衛	33教大体	石川	R2.10. 2	長男	盛 真友
吉居 三郎	23体	長崎	R2.11.16	次男	吉居 正二	五島祐治郎	33教大体	兵庫	R3. 2.17	妻	五島加寿子
畑 忠雄	23体専	福井	R2.10. 2	長男	畑 佳宏	武田 哲	34教大心	北海道	R3. 4.19	長男	武田 伸之
下山 寅雄	24理四	東京	R2. 2.12	妻	下山 當子	丸谷 承一	34教大数	新潟	R3. 4.20	妻	丸谷 千春
七澤 信夫	24農教	富山	R3. 3.14	妻	七澤 尚子	龍井 昇治	34教大数	茨城	R2.12. 4	妻	龍井 正子
仲田 節雄	25文二	東京	R3. 3.26	長男	仲田 俊一	後藤 春夫	35教大哲	千葉	R3. 3.23	妻	後藤まち子
野地 武	25理一	神奈川	R3. 6. 4	妻	野地 利恵	石井 勝	35教大漢	東京	R3. 4.11	長男	石井 徹
菊池 欣一	26体	岩手	R3. 3.10	長男	菊池 正	渡辺 和男	35院修東史	埼玉	R3. 2. 9	長女	渡辺 玲子
佐藤 匡	27大英	茨城	R3. 2. 4	妻	佐藤 つる	久野 進一	36教大農経	東京	R2. 1.22	長男	久野 達郎
箕輪 昭二	27大漢	東京	R3. 3.25	子	箕輪 元	平野 恒徳	36教大体	愛知	R2.10.21	長男	平野 学
笠見 正保	28教大経	東京	R3. 4. 2	長男	笠見 利夫	竹田 吉郎	37教大独	東京	R3. 2.13	妻	竹田香代子
富田 隆祐	28教大体	埼玉	R3. 4.26	妻	富田 玲子	金子 信男	38教大哲	神奈川	R2. 4.20	妻	金子 寿子
前田 徹	29教大植	東京	R2.12. 9	妻	前田 啓子	小林 貞	38教大農	神奈川	R2. 1.11	長男	小林 圭
滝沢 順	30教大日史	東京	R3. 1.29	妻	滝沢英美子	小久保 勲	39教大物	東京	R2. 7.20	長男	小久保弘晶
諏訪 秀隆	31教大英	静岡	R3. 4.21	長女	諏訪百合子	岩下 彪	40院博物	埼玉	R3. 4. 6	妻	岩下 清子
錦谷 禎	31教大構成	北海道	R2. 2. 6	妻	錦谷 圭子	三浦 憲二	45教大体	青森	R3. 3.15	妻	三浦 安世
村上 好	31教大化	東京	R3. 2.23	長女	村上 尚子	増田 浩	59筑芸	栃木	R2. 5.10	姉	池田千恵子
萩原 守之	31教大総農	埼玉	R3. 5. 9	妻	萩原 雪枝	河手 太士	11図大図情修	北海道	R3. 4.25	妻	河手千香子



地域と歩み、次代を創る。

**SEKISHO**  
SEKISHO GROUP

当社は「財団法人関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



**関彰商事株式会社**

代表取締役社長 関 正樹

つくば本社 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：取締役 常務執行役員安全管理本部長 岡本 俊一  
(昭和56年 第一学群 社会学類 卒業)

<https://www.sekisho.co.jp/>



安全に、快適に、正確に

**OZONE 大曾根タクシー株式会社**

代表取締役 塚本 育子

☆お迎え料金無料

☆カード利用 OK!

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑 3 丁目 19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます

# 広報

## 訂正

前号（令和3年3月号）で誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

P5 「令和3年度 本部及び地域組織の総会・研修会 予定」

No.16 千葉支部（開催予定日時）

（正）7/4（日）13：00

（誤）7/7（日）13：00

No.18 神奈川茗溪会（開催予定日時）

（正）7/24（土）11：00

（誤）7/3（土）11：00

No.22 富山支部（開催予定日時）

（正）中止

（誤）7/6（土）15：00

## 編集後記

コロナ禍により、社会活動は一変しました。かつては「リモートワーク」などというものは、一部の人たちの特殊業務形態と思われていたものが、時の政府が声高に推奨する働き方になりました。かつて単身赴任時代に、家族との連絡手段であったネットTV電話が、ビデオやカメラ撮影用語のような業務用に進化したものが台頭し、その名称を誰でも口にするようになりました。コロナ禍のこの時代、これなしでは事が運ばなくなってきたように感じます。先日、私も経験しましたが、何故か顔を合わせる会議よりも、よっぽど疲れました。（事務局）

## お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡ください。
- ・年会費のお振込みは、早めにお問い合わせいたします。

令和3年7月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

TEL 〇三三九四一〇二三六

FAX 〇三三九四一七六七四

E-mail info@meikei.or.jp

URL <http://www.meikei.or.jp>

郵便振替記号番号 〇〇一五〇二四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一〇一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九一八五〇一〇四四

FAX 〇二九一八五〇一〇四五

E-mail [tsujimu@meikei.or.jp](mailto:tsujimu@meikei.or.jp)

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社

## 令和3年春の叙勲

おめでとうございます（敬称略）

旭日小綬章

須賀瑠美子 48教大芸

瑞宝中綬章

脇田 久伸 47院博化

瑞宝小綬章

大室 雄治 36教大地

菊谷 一 51院修動

柴田 富男 45教大農

渡邊 貴則 52院修哲

外山 隆 48教大体

末平 佑二 45教大体

植田 質 49教大体

津田 誠 48教大健

水野 重夫 49筑数

亀田 陽一 51院修東史

北御門哲男 48教大武

瑞宝双光章

柿添 賢之 44教大健

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、事務局までお知らせください。

## 令和2年秋の叙勲

おめでとうございます（追記敬称略）

瑞宝中綬章

戸谷 賢司 48教大体

（東京）

— 筑波大学の知の発信 —  
筑波大学出版会

近日刊行

美をめぐる饗宴

筑波大学アート・コレクション  
石井コレクション

五十嵐利治 監修  
寺門臨太郎 責任編集

(8月27日刊行予定)

販売・丸善出版



競技スポーツにおける  
コーチング・トレーニングの  
将来展望

— 実践と研究の場における知と技の好循環を求めて

高松 薫 編集代表

定価 3,740 円 B5 判並製 288 頁  
紙版・電子版 C2075  
ISBN 978-4-904074-60-2 (紙版)



フェルミオロジー

量子振動と角度依存磁気抵抗振動

宇治 進也 著

定価 4,950 円 A5 判並製 224 頁  
紙版・電子版 C3042  
ISBN 978-4-904074-58-9 (紙版)



もっと知りたい!  
「科学の芽」の世界  
PART 7

「科学の芽」賞実行委員会 編

定価 2,420 円 B5 判並製 220 頁  
カラー/紙版・電子版 C0040  
ISBN 978-4-904074-56-5 (紙版)

株式会社 阿部兄弟建築事務所  
平成26年度東京ワークライフバランス認定企業

<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032

東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル

代表取締役 荒井 豊人(昭和57筑基工)

TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

経営・労務・年金etc. コンサルタント

福岡経営労務事務所

〒125-0042 葛飾区金町3-27-3

TEL 03(3607)0551 FAX 03(5876)4338

所 長 福岡 一雄 (32教大法政)  
社会保険労務士



株式会社 十和観光

代表取締役 井坂 信洋

URL <http://www.juwa.com> E-mail: [travel@juwa.com](mailto:travel@juwa.com)  
〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254  
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

株式会社 岩手チキン工房

— みんなに笑顔をお届けします。—

代表取締役 田中 修 (昭54筑農林)  
社長

〒028-3309 岩手県紫波郡紫波町北日詰字城内85-1  
TEL: 019(676)4121 FAX: 019(676)4464  
<http://www.i-c-koubou.co.jp>

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」

TSUKUBA WAY プロジェクト

～ 茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!! ～

<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ

代表取締役 藤田 文武 (体育専門学郡)  
2004年卒

**FXC**

Future X Communications

FXC株式会社 <https://www.fxc.jp/>

当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。

創業者: 代表取締役社長執行役員 谷輪 重之 (93筑修経営)

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 ケイエスアイ

本社 〒557-0063

大阪市西成区南津守7-15-16

TEL 06-6652-8000 FAX 06-6652-8894

株式会社 長谷工 コーポレーション  
HASEKO

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号

電話 03(3456)4501

取締役専務執行役員 植岡 祥之(昭57筑社工)

広告を募集しています。事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗溪会

〒112-0012 東京都文京区大塚1丁目5番23号

電話 03(3941)0136 FAX 03(3941)7674

eメール [info@meikei.or.jp](mailto:info@meikei.or.jp) ホームページ <http://www.meikei.or.jp>

# 日本一の業務用酒販会社で 一緒に楽しく働きませんか？

※業務用…居酒屋、BAR、レストランなど料飲店のお客様

カクヤスは、酒類・食品等の料飲店及び一般家庭向け販売、「なんでも酒やカクヤス」を主力とする店舗運営を行っております。全国各地から多数入社しており、若手からベテランまで活気のある会社です！



圧倒的な  
配達拠点数



年中無休  
365日配達



365日24時間  
受注体制



急なご注文も  
即日配達



社員の家族も招待して乾杯する【全社懇親会】や割安で商品を購入できる【社内販売割引制度】、年齢や部署を超えて交流できる【部活動・サークル活動】など、魅力的な制度をたくさんご用意しております。

## 国内業務用酒販 売上NO.1!

(2016年調査会社調べ)

## 顧客満足度NO.1!

(首都圏飲食店2017年5月調査会社調べ)



# 株式会社カクヤス

<会社概要>

本社：東京都北区豊島2-3-1  
代表取締役：佐藤 順一  
創業：2020年10月1日  
資本金：1000万円

<仕事内容>

・料飲店などの業務店のルート配達  
・一般のご家庭への配達

連絡先：03-5902-3619  
(人材開発部 採用担当)

HPにも遊びに  
来てくださいね！



なんでも酒や **カクヤス**  
<http://www.kakuyasu.co.jp/>

広告を募集しています。

事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗溪会

〒112-0012

東京都文京区大塚1丁目5番23号

電話 03(3941)0136

FAX 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp

ホームページ http://www.meikei.or.jp



桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群  
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群  
グローバル・コミュニケーション学群  
航空・マネジメント学群(2020年4月開設)

桜美林学園 理事長・大越 孝

学長 畑山 浩昭

入学部相談役 川田 孝一(昭39教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町3758

桜美林大学入学部インフォメーションセンター

Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



One Theme  
クレイス叢書

# 自己評価のすすめ

「自立」に向けた「自信」を育てる

安彦忠彦 著 四六判, 184頁, 定価2,200円



## 「自信を育てる自己評価」の入門書

- 自立心が低いと言われる, 日本の子どもたち。的確な「自己評価」の積み重ねに裏打ちされた「自信」をもち, 自立した大人に成長するための道筋を示す。
- 新時代の, 望ましい「自己評価」のあり方とは。子ども支援にかかわる教育関係者はもちろん, すべての大人に届けたい1冊。

目次

第1章 日本人の「自己評価」の低さ

第2章 「自己評価」とは何か

第3章 日本人の「生き方」の特徴

第4章 「グローバル化」の中の日本人

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15  
http://www.toshokunka.co.jp/

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519

Meikei –  
Making  
the  
Difference



Meikei  
High School

茗溪学園中学校高等学校

\* 茗溪学園は 1979 年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆ 寮のある学校です  
海外からの外国人留学生も生活しています
- ◆ 国際バカロレア IBDP 課程認定校です
- ◆ 文部科学省 SSH・SGH アソシエイト認定校です
- ◆ 「知識」「体験」「考え方」  
——とことん学び身につけます
- ◆ 部活動が盛んな文武両道の学校です

2022年度入試に関連する学園説明会等は、すべてオンラインで行っています。

ホームページでご確認ください。  
下記のe-mailでも問い合わせができます。ご活用ください。



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、  
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」  
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)